

第82号

会報

一般社団法人 函館文化会

〒042-0955 函館市高丘町51番1号
学校法人野又学園 函館大学内
電話・FAX (0138) 57-1175
E-mail bunkakai@host.or.jp
URL http://hakodate-bunkakai.com/

「郷土の歴史と文化」を語る集い



講師と来賓皆さんで記念撮影



講師・阿部陽子氏



ギター演奏・隅田久雄氏

会員相互のより一層の親交を深めることを目的に、函館文化会が取り組む「郷土の歴史・文化の伝承」にちなみ「郷土の歴史と文化」を語る集いを五島軒本店で開催しました。

集いは、第1部でNHK函館放送局長 阿部陽子氏の講話、第2部の懇親交歓会はステージ演奏に始まり、会員お二人からのテーブルスピーチ、函館文化会では初めての抽選会などが行われ、最後まで盛り上がった楽しい集いとなりました。(集いの内容は4ページに)



函館文化会初めての「抽選会」

(写真撮影：フォトスタジオカトー)

函館文化会 会報 第82号 目次

「郷土の歴史と文化」を語る集い	1
令和2年度定時総会を開催 ～金山正智氏を会長に再任～	2
函館文化会 会員募集及び助成制度	2
会長挨拶	
自転車に乗って	金山 正智
函館文化会役員名簿(令和2年度定時総会選任)	3
「郷土の歴史と文化」を語る集い 盛会裡に終わる	4
講話	
ことばと地域文化について	阿部 陽子
スピーチ	
函館とロシア	佐々木 茂
世界を意識してきた函館人	船矢 美幸
函館文化会ホームページ・ブログの開設について	9
函館文化会講演会	
令和元年度講演会・講演録	
最後の箱館奉行 杉浦兵庫頭誠 田原 良信	10
令和2年度講演会・開催案内	17

特集 函館の歴史と文化を語り継ぐ⑤	
～テーマ「路面電車」～	
市電の存続のために	大久保孝之
路面電車と観光&移住生活	安立真由美
函館と電車と本町界限	増井 慎吾
函館と路面電車	末永 玲子
「記念乗車券」を豆本で発売	櫻井 健治
路面電車の走る街に暮らして	山田 民夫
原稿募集・次回テーマは「函館山」	23
特別寄稿	
追悼 神山茂郎氏、岡田弘子さん逝く	
神山茂郎氏を偲ぶ	山那 順一
岡田弘子さんの思い出	櫻井 健治
函館図書館と岡田健藏	丹羽 秀人
会務報告	
令和元年度事業報告	31
令和元年度収支計算書	33
函館文化会会員名簿(R2.10.1現在)	34
編集後記	34

令和2年度定時総会を開催 ～ 金山正智氏を会長に再任 ～

一般社団法人函館文化会「令和2年度定時総会」は、新型コロナウイルス感染症予防対策として緊急事態宣言が発出され、外出自粛要請が続くなど不安と不便な状況の中ではありましたが、できる限り会議時間を短縮、例年行われている「卓話」を中止するなどして、去る5月25日(月)午後1時30分から五島軒本店において、会員119名（委任状出席を含む）の出席で開催、提出された議案・報告は全て原案のとおり承認・了承、また、任期満了に伴う新役員は議長の指名により同意、選任されました。

以下、定時総会の内容について、その概要をお知らせいたします。

定時総会は、金山正智会長から「新型コロナ禍で不安な生活を強いられているが、そんな中でこそ創意工夫を交えて対処していくことこそ難しい時代の希望となる」との挨拶の後、定款の定めにより会長が議長となり議事に入りました。今定時総会に付議された議案・報告は

- 議案第1 令和元年度事業報告について
- 議案第2 令和元年度収支決算及び監査報告について
- 議案第3 役員（理事、監事）の選任について
- 報告第1 令和元年度収支補正予算について
- 報告第2 令和2年度事業計画について
- 報告第3 令和2年度収支予算について
- 報告第4 「講演会」の開催について

の7件で、議案第1、議案第2及び報告第1は関連があることから事務局から一括して説明、次いで監事から5月18日実施した監査について「経理については正確かつ適正に行われており、また、事業も事業計画に基づき適正に行われていると認める」との監査結果の報告があり、審議の結果、いずれも満場一致で承認・了承されました。

なお、承認された令和元年度事業報告・収支決算については、別掲（31ページ）のとおりです。

また、去る3月27日の令和元年度第3回理事会で議決した令和2年度事業計画・収支予算について、報告第2及び報告第3として一括説明がありいずれも満場一致で了承されました。新年度の事業の主なものは、「神山茂賞の贈呈」を継続して実施、同日開催の「受賞者を祝う会」には多くの会員に参加を呼びかけ、会員交流の場にもすること、また、「函館文化会講演会」は、10月17日(土) 函館市中央図書館で、北海道新聞社小樽支局長相原秀起氏を講師に「函館・空の事件簿」を演題に開催予定、さらに5年目を迎える「市民公開講座」も郷土の歴史・文化に関する色々なジャンルの方々に講師を迎え、継続して実施することが報告されました。

次に、議案第3の役員を選任について、現役員が今定時総会をもって任期満了となることから、議長から指名された理事、監事候補者を順次諮りいずれも満場一致で選任に同意。新役員選任後、総会を休憩し理事会において会長等の互選が行われ、会長に金山正智理事を再選、以下新役員が別掲（3ページ）のとおり決定いたしました。



● 会員を募集しております ●

函館文化会では「郷土の文化を顕揚し、その振興発展を図ることを目的」に活動を続けておりますが、この趣旨に賛同いただける方を募集しております。

皆さんの近くに入会いただける方がおられましたら電話、FAX、メールなどで文化会事務局にお知らせいただけませんか。「入会申込書」をお届けいたします。

● 函館文化会の助成制度について ●

函館文化会では、郷土文化振興事業の一環として郷土文化団体が函館市内において開催する講演会、展示会及び芸能発表会などに対し予算の範囲内で助成を行っております。

事業の実施前に申請を受け、審査の上助成の可否決定いたします。詳しくは、文化会事務局にお問い合わせください。

事務局からのお願い 会員皆様に「住所」「電話番号」に変更が生じましたら、事務局に連絡をお願いします。

会長挨拶

自転車に乗って



一般社団法人 函館文化会 会長 金山正智

六十を過ぎて、自分の自転車というものを初めて手にした。うれしくてまち中を走り回っているが、平らに見えている函館の道が、意外に坂が多いのには閉口している。愛車は小型車輪のかわいいヤツであるが、非力で坂に弱い。

私の住まいは川原町だが、行きつけの床屋と歯科医は函館駅前にある。そこへたどり着くまでには、電車の軌道路面まで一度出なければならない。この、深堀町電停付近への道が結構の急傾斜なのである。骨身にこたえる。何とかもつとゆるやかな道がないものか、柏木町までの道筋を走り回ったが無駄であった。ついでに競馬場まで走ってみたがすきはしない。市電路線は、すべてが地域の最も高いところにある。改めて地形図を見ると、日吉の段丘の下方にもう一つの段丘があって、電車はこの等高線上、つまり尾根伝いに走っていることになる。

この電車路線は、明治30年開業の函館馬車鉄道も走っていたという。となると、千代台から五稜郭への急な坂道、そして駒場車庫前と市民会館をつなぐ峻険な傾斜を、馬が、客を乗せた車を曳いて走っていたことになる。馬車鉄道は平地を走るものとばかり思いこんでいたので、少し驚いた。

函館馬車鉄道の古い写真がある。あふれる客が窓から顔を出し、その客車に繋がれた小型の馬が、ぼんやり立っている。お前大丈夫か、と声をかけたくなる。しかし、この頼りなげな馬が、雪を蹴散らし坂道を果敢に登っていったのである。そういえば函館の馬は足腰が強い、あの富士山に登ったし、函館八幡宮の階段も駆け登るとい話を聞いたことがある。街なかの登りごときに弱音を吐く自転車乗りとは、デキが違うのである。

3月に予定されていた市民講座、増井慎吾氏の「市電のルーツ・函館馬車鉄道物語」では、こうした馬車鉄道敷設のいきさつや運行の様子、当時の湯の川温泉の賑わいなど、楽しい話をお聞きできるものと期待していたが、新型コロナがすべてを台無しにした。

自転車の弱点は坂ばかりではない。風もまたやっかいな問題である。函館は風が強いまちである。今年は暖冬であったので、1月末には、自転車に乗っていた。おかげで、初めて冬の季節風の中を自転車で走る経験をした。さらに春先の馬糞風である。坂道は足にくるが、真っ向から体につぶつかってくる風は、体力だけでなく気力も削ぐ。

坂と風のまちを自転車で走る者が、常に心しておくべきことであるが、細い道や歩道で対向車とすれ違う時には、己の位置と状況を即座に判断して行動する心を持たねばならぬ。アゲンストのつらさは己が百も承知である。坂下や風下の相手には、時には車を降りて道を譲る、そうした思いがほしい。存外、こうしたやさしさやゆとりを日常とすることが、まちの姿や歴史、文化を豊かに読み取るものの必須要件かもしれない。自転車乗りの自戒である。

今年も函館文化会に対し、変わらぬご支援をお願い申し上げます。

一般社団法人 函館文化会 役員名簿

(令和2年度定時総会選任)

○会 長	金山正智	○理 事	小原幸男	○理 事	山本真也(断)
○副 会 長	平原康宏		櫻井健治		若山直
○常務理事	上田昌昭(断)		佐々木茂(断)	○監 事	向出清治
○理 事	五百川忠(断)		平昭世		山田凉子
	繪面和子		藤井方雄	○顧 問	安島進
	小笠原孝		藤井良江		池見厚一

※この度の役員改選で、池上信廣氏、叶 邦武氏、田村志朗氏、三浦 稔氏が退任されました。永年に渡るご尽力に心より感謝申し上げます。

“「郷土の歴史と文化」を語る集い” 盛会裡に終わる ～講話の講師に、阿部陽子NHK函館放送局長を招聘～

函館文化会では、郷土文化振興の一つとして平成元年に「神山茂賞」を創設し、これまで多くの方々を顕彰申し上げてまいりましたが、令和元年度は複数件の受賞候補者の推薦があり、神山茂賞選考委員会で慎重審議の結果、残念ながら受賞該当者がなく「神山茂賞贈呈式」は見送りとなりました。

しかし、神山茂賞贈呈式の後の祝賀会は、受賞者を囲み祝意を表す場であると同時に、会員交流の場ともなっており、その貴重な機会を失うこととなりました。そこで、会員相互のより一層の親交を深めことを目的に、函館文化会が取り組む「郷土の歴史・文化の伝承」にちなみ、会員及び関係者60人が出席して2月13日(木) 五島軒本店において“「郷土の歴史と文化」を語る集い”を開催いたしました。

集いの第1部では、NHK函館放送局長 阿部陽子氏を講師にお迎えし「ことばと地域文化について」と題しての講話。阿部局長は昭和63年(1988)にアナウンサーとしてNHKに入局し、広島を皮切りに全国各地に勤務されており、それぞれの地域が持つ言葉と生活、文化等のつながりについてお話をいただきました。

また、第2部の懇親交歓会では、ステージ演奏として函館ギター協会会長 隅田久雄氏のギター演奏、参加いただいた会員の中から佐々木 茂氏、船矢美幸氏のお二人に「郷土の歴史と文化」をテーマにスピーチをお願いし、それぞれ郷土への思いをお話いただきました。集いの最後は函館文化会では初めてという「抽選会」が行われ、大いなる盛り上がりを見せて盛会裡に終了いたしました。今回の“「郷土の歴史と文化」を語る集い”をきっかけに、函館文化会が取り組む「郷土の歴史・文化の伝承」への理解が一層広がっていくことを期待したいと思います。

第1部の阿部陽子氏の講話の概要、第2部でのお二人のスピーチの概要を紹介いたします。



“「郷土の歴史と文化」を語る集い”(令和2年2月13日)

ことばと地域文化について

NHK函館放送局長 阿部 陽子



講話中の阿部陽子氏

皆さま、今晚は。ただ今、紹介していただきましたNHK函館放送局の阿部陽子でございます。今日はこちらの歴史と伝統ある函館文化会で、それも講師としてこんな高いところに立たせていただいて本当に恐縮でございます。私がこの会社に入ってからのお話などをさせていただけたらと思っております。

まず自己紹介をさせていただきます。私は群馬県桐生市の出身で大学は筑波大学です。専攻は数学で数学の先生に

なろうと思って大学に入ったのですがちょっと間違えてNHKのアナウンサーになってしまいました。NHKのアナウンサーはちょっと面白いんです。自分で番組作ったりもするんですね。私は最初の10年間はほとんど番組作っていました。癌の末期の話とか、安楽死の話とか子どもの虐待などをほぼ10年間やってきました。そこから後、管理職になってからの方がまじめにアナウンサーの勉強をしまして、朗読ですとかプレゼンテーションのやり方ですとか、また、アナウンサーをどうやって育てるかとかといったことをやりながらここまで来ました。

初めての北海道言葉

…暖っかいですねー。私、初めての北海道でどれだけ寒いのかと思って、電気毛布とホットカーペット一畳分を買ってきました。もちろん新品で、まだスイッチが入っていません。ストーブだけで十分暖かくて、今日なんか本当に三ヶ月ぶりくらいにヒールのある靴を履いてきてしまいました。タイツでなくてストッキングが履けるみたいな…こんなんでも良いのかと思うくらいちょっと不安に思っているんですけど…

そんな北海道で最近「いいなあーと思っている言葉」があるんです。「飲まさる」と言う言葉です。「飲まさる…」。飲んだのは自分でしょう？それなのになぜ「誰かに飲まされた」…というそういうイメージの言葉じゃないですか。飲まなければいけないような状態だったようなことが含まれていますよね。飲むという行為を他人のせいにしちゃうと言う、なんと素晴らしい言葉か！と私は北海道に来て思っているんですよ。

北海道の言葉の中で「一番気になっている」のはみなさん「過去形」で話されることなんです。函館に赴任して、最初にスーパーに行った時でした。洗剤かなんかだったと思うんですが、私は今まで使っているものと同じものを探していたんです。「〇〇置いてませんか？」と言って店員さんに訊きましたら「はあーそれ店では扱ってなかったんですよ」とおっしゃったんですね。「扱ってなかった」と言うことは「今扱っている」と言うことかと思ってしばらく待っていたんですが、ニコニコ笑ってその場にいらっしゃるんですよ。「やっ、これは扱っていない」という意味だと言うことにしばらくして気がついたんです。また、函館市の文学館に行った時の話ですが、館内では写真は撮れないと言うことをまず事前に説明されるんですね。その時に「館内では写真は撮れませんでした」とおっしゃっ

たんです。「撮れません」で止めてくれれば良いのに、なんで「た」が付くんだろうとすごい不思議でした。その後回転寿司でも注文すると「ハイ、イカ二貫でした」と言うんです。「イカ二貫です」でしょ！みたいな。関東から来ると過去形一つ一つに凄く引かかるんです。

でも、ある人に「ありがとうございます」より「ありがとうございました」の方が「丁寧」に聞こえるでしょうと言われたんですよ。みなさんはどうですか。「ありがとうございます」っておっしゃいます？あつやっぱり、何人か頷いていただきました。「ありがとうございました」と過去形にした方が丁寧に聞こえるらしい。なるほど、これは英語で言うところの「would」であると…。丁寧語なのかと思いました。それで、思い出したことがあります。こういう仕事をしていますので友人の結婚式の司会を何十回としているのですが、司会をしている中で以前ある披露宴に皇室の方がお見えになったことがありました。〇〇殿下・妃殿下、△△親王、☆☆宮妃の4人も皇族方が列席されるという結婚式の司会をしたことがあります。そういうときは司会の原稿というのを作るんですが、それに宮内庁から失礼のないようにとチェックが入るんです。その時に言われたことは、必ず最初の発言、例えば司会者は司会の最初に、仲人は仲人として挨拶をするときの始めに必ずこう言って下さいというのがあるんです。それが「〇〇殿下・妃殿下、△△親王、☆☆妃殿下のご列席を賜り、まことに恐れ入りました」…過去形なんです。それをその時不思議に思ったんですが、今思えばいい、というイメージを持っている言葉なのかなあーと…これは想像です。本当かどうかはわかりませんよ、すみません。その時の経験を思い出してやっぱり北海道の人の過去形をwouldと推測したのは結構正しかったのかも…と最近思ったものです。

一つになれる言葉

私が生まれたのは群馬県の桐生市です。群馬県というところには上毛カルタというのがありまして、44枚札があ



群馬県民が楽しむ「上毛カルタ」

るのですが全ての札の中に県の良いところが全部読み込まれているんです。私は今でも全部言えます。あ…「浅間のいたずら鬼の押し出し」、い…「伊香保温泉日本の名湯」また、赤城、榛名、妙義、この上毛三山も読み込まれています。「裾野は長し赤城山」「登る榛名のキャンプ村」「紅葉に映える妙義山」。一番有名なのは「鶴舞う形の群馬県」と言う歌なんですけども、群馬県人に「鶴舞う形の…」と言って「群馬県」って言えなかったらその人はモグリって言うくらい多分全員が知っているものなんです。ち…「力合わせる??万」と言う札があるんですけど、この??万というのはその当時の人口が入るんです。この数字が何万だったか、で相手の大体の年代がわかるんです。群馬県人同士で話をしているとき、「あの数字、何万だった?あ、じゃあ、私と同じ年代だ」って。ちなみに私の時代は180万でした。最近では200万らしいです。面白いでしょ。ちなみに函館にも関係があります。新島襄さんは群馬の沼田の出身ですよ。ちゃんと札があります。へ…「平和の使徒(つかい)新島襄」と言う札です。新島さんがここ函館からアメリカに渡ったと聞いたときは「あつ、“へ”の人だ」と思い浮かべている感じなんです。群馬県はカルタで一つになれる県です。

長野県にも勤務していたことがあります。長野には県歌「信濃の国」というのがあり、明治31年に作られています。この歌6番まであって全部で8分くらいあるのかな、もの凄く長い歌です。長野県人は学校の始業式や終業式時に君が代、信濃の国、校歌の順番で歌います。ですから長野県人は全員歌えるというものすごい歌なんです。全曲歌うと途中転調の箇所があったりしてすごく面倒くさいんですが、この歌は長野県人を結びつけている歌なんです。ということがあったかという、私が長野県に転勤したときに内田康夫の「信濃の国殺人事件」と言う本を読んだんです。その中に信じられない話が載っていたんです。長野県は南北に長い県で長野があつて、松本があつて、飯田があつてそれぞれが北信、中信、南信っていうくらいお国柄が違うんですよ。松本は自分が中心だと思ひ、長野は長野で自分のところが県都で中心だと思ひているということもあつて、ある日松本から南を切り離すという、分県運動というのが起きるんですよ。「切り離してわれわれは独立するんだ」と県議会の議決まで行つたと。そして今まさに採決されようとするそのときに議場の外からこの県歌「信濃の国」が聞こえてきたというんです。信濃の国の最初のフレーズは「信



長野県歌「信濃の国」

濃の国は十州に境つらなる国にして…」です。十州と言うのは、南は遠州、上州がありますね、甲州もあり越州と言うのもありますよと言うふうに周りが十の州に連なっているという歌なんです。分県しちゃったら十州にならないじゃないですか。と言うことに気がついて採決を止めたと書いてあるんです。本当かと思ひますよね。私は、これは良く出来すぎた話だと思ひていたんですけど、なんと、県史に載っている本当の話だったんです。調べましたら昭和23年春の定例県議会で長野県を南北に分割しようとする「分県意見書」が出され、議決されそうになったときにこの住民たちの歌声で議決するのを止めたということが県史に載っているんです。長野県は歌で一つになれる県なんだなと思ひました。

北海道はお正月の魚と言えば鮭でしょう?やっぱり乾鮭というか乾いた塩鮭がお正月の魚じゃないですか。わたしの生まれた群馬も、やっぱり新巻鮭だったんです。新巻鮭の文化だったから、お正月に親が鮭をお歳暮とかに贈る風習があつたんですが、広島に行ったら鮭がないんですよ。それで、え一つと思ひて…。広島は鯛だったんです。なるほど南は鯛なのかと…みなさん鯛と鮭の境目ってどこにあると思ひます?長野の松本なんです。これは取材した市場の魚屋さんが教えてくれました。ちょうど松本が半々くらいだそうです。長野県の南半分は鯛文化、北半分は鮭文化でだから分県しようという人たちの気持ちはわからないわけではないんですよ。今でもですね、NHKの番組のタイトルは「〇〇信州」なんです。「〇〇長野」なんて言ったら松本から南はそっぽ向いてしまうので、番組のタイトルは全部「信州」なんです。北海道のNHKでは「ほっとニュース北海道」とかあるじゃないですか。多分日本全国の都道府県でNHKの番組の中で州の名前をつけて番組を作っているのは長野放送局だけです。「長野」って言いから。それだけに長野県は歌で一つになれる県なんだな

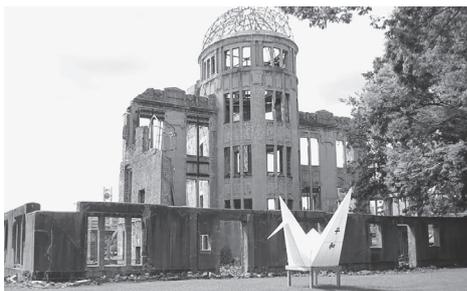
と思いました。

奇跡の言葉を持っている

もう一つ広島の話をしようと思います。初任地の広島は非常にいろいろ衝撃を受けたところでありました。

例えば「来ちゃった」って。これは敬語なんですけど、私すごくびっくりしたんです。私より若い、高校を卒業して職員になった受付の女の子がいたんですね。仲良くなって「〇〇さんの誕生日で△△に行くんですけど、阿部さんもきちゃったら」っていうんです。ちょっとムツとして「来ちゃたらって…この子私より年下だよな」ってちょっと思いました。よくよく聞いたら「いらしたら」と敬語で私を誘ってくれたことがわかったんです。広島の人たちは「先生が来ちゃった」と言ったら「先生が来てしまった」ではなく「先生がいらっしゃった」と言っているんですね。敬語がある方言というのは非常に伝統もあり文化もあるんだそうです。そんな広島に赴任するとき「あの県はカーブとお好み焼きと原爆だから」っていわれて「そこは取材しておこう」くらいに思って赴任したんです。

あるとき取材していると、私が居たところはまだまだ被爆者の方が大勢生きていらっしゃって、私が借りていたアパートの一階の布団屋さんのおじさんも被爆者でした。当時彼は疎開していたけれど8月6日の朝お姉さんと二人で広島に戻ってくる予定でした。ところが、彼だけお腹が痛かったので戻れなかったそうです。お姉さんだけが戻って家族全員亡くなって彼だけ生き残っているんです。また、私がよく知っている被爆者の方は通信省か何処かに勤めていて当日朝8時には出勤していて事務室の机を拭いていたそうです。そして彼女だけ雑巾を絞りに廊下に出たから助かったとか…。広島を中心地では延焼を防ぐため建物疎開といって建物を壊すために高校生、当時の中学生たちがみんな駆り出されていたんですけど、その日お腹が痛くて作業に行けなかったから生き残ったとか、早く兵隊になりたかった軍国少年が晴れて入隊することになり、宮島へ戦勝祈願に行っ



広島を語る「原爆ドーム」

た帰りに乗った市電が爆心地のほぼほぼ真下で被爆しているんですけど、生きていますよ。なぜかというとその電車は満員で彼はとっても小さい少年だったから周りが全部死んで彼だけ生き残ったと言うような話を皆さんして下さるんですね。原爆って言うのは誰も避けて通れなかったんです。全然関係ない経済番組とか保育の番組とかそんな取材に行っても、当時被爆者の方が大勢生きていらっしゃいましたからやっぱり雑談の中で被爆の話になるんですね。ある人は「お正月とかお盆とか親戚同士で集まると奇跡の話になるんですよ」って…そう、生きている人たちはみんな奇跡なわけですよ。なぜそこで帰ってきたのか、なぜそこで市内に行かなかったのかとか、本当に奇跡の連続なんですね。私は、**広島は奇跡の県、奇跡の話が一杯ある県**だと今でも思っています。

結構番組も作りました。広島湾に似島（にのしま）と言うところがあるんですが、安芸小富士と呼ばれるくらい富士山型の島なんですけどそこに被爆当時検疫所があったんです。そこには医者がいると言うので、大勢の被爆者が送り込まれていくわけですよ。船にどうやって詰め込んだと言うくらい詰め込まれて送り込まれて、そこで大勢亡くなって埋められていくわけです。元検疫所の兵隊だった人と似島のことをちゃんと調査したいと言う人が出てきてその人の取材をしていたんですね。その時似島で市営住宅を建てると言う話が持ち上がり、基礎工事のために掘ったんですが、そうしたらものすごくいっぱいの人骨が出てきたわけですね。間違いなく被爆者の骨なんです。その検疫所の元兵隊のおじいちゃんの記憶の中にある亡くなった人を埋めた場所のどこかなんだということです。私はその日朝からカメラを持って行ったんです。すると中年の男性に背おわれておばあさんが朝一番の船でやってくるんですよ。とことこやってきて我々がカメラを構えている前にやってきても、カメラに目もくれずにお骨のある場所でずっと手を合わせているんです。それが終わると今度は、私たちのカメラに向かって拝むんですよ。そして「この骨を少し分けてくれませんか？」っていうんですね。思い出すと今でも泣きそうになります。投下直後そのおばあさんは自分のご主人を探したそうです。町中を何日か探して歩いて似島に行った人の名簿の中に夫の名前を発見しました。でも当時似島を探しに来ても、見つけることが出来なかったわけです。番組はテレビで放映していましたから彼女は「テレビを見ってきました。（この骨の中に自分の夫はいるはずだ）この

骨をわけてくれませんか」と我々を拝むんです…。もう40年たっています。そのおばあさんは亡くなっているでしょうが私の中では全然癒えてないって言うか、今私が話しているでも乗り移るくらいのみずみずしきで 夫のことを悼んでいると言うことがすごく印象的でした。

先ほど奇跡の話をしました。奇跡の話に戻りますと、奇跡の言葉を持っている場所がもう一ヶ所あると思います。それは「3.11東日本大震災」の津波にあった地域でした。大槌町に津波の後、三か月くらいかな、一応瓦礫は片付いて山のように積んだ状況にはなっていた中で中継に入り、何人かの方の体験談をそこで聞くことが出来ました。

私が聞いた方は男性でしたが、奥さんが最初に津波に気づいて二階でテレビを見ていたご主人に「お父さん逃げて!!」と叫んだんです。「津波てんでんこ」といいますが、奥さんはそのまま走って逃げていったそうです。でもご主人は堤防が10mもあるし越えて来るとは思っていないのでテレビを見ていたそうです。その内テレビがぶつーんと切れました。どうしようと思っている内に津波が来ちゃったそうです。彼は二階にいてどんどん津波が上がって来て、テーブルの上に行き、箆の上に行きそして天井まで後数センチ、上を向いて、口だけ出ているっていうところで津波が引いていくんです。彼はこのままではいけないと思えば

に登っていくとこんどは津波が屋根を浚っていくのです。けれども屋根は壊れずにそのまま流れて行って、引っかかったところで消防士さんに助けられて彼は避難所に辿り着いたのです。それもかなりの奇跡の連続ですよね。奥さんどうしたんですかと聞くと「避難所で会えたんだよ」っていうんです。奥さんの方も逃げただけでも逃げ場所がなくなって歩道橋の上に登ったんです。歩道橋の上もすごい人数がいるわけですよ。歩道橋も危ない!!津波が来る!!…、そして歩道橋が倒れたんですが運良く陸側に倒れたので彼女は助かったそうです。これが違う方向に倒れていたら多分彼女は津波に吞まれていただろうと言うんですね。私はその話を聞きながら「あーっ広島で聞いた話と本当に一緒だなあー」と思いました。ちょっとした奇跡の積み重なりで今の人たちは生きているんだなあーと思えました。私にとっての奇跡の場所、奇跡の言葉を紹介させていただきました。

こうして全国を転勤して歩いていろんなところに行くといろんなみなさんの話を聞くことができます。それを私なりにいろいろ考えながらここまで来たと言うことです。函館については、これからいろいろ勉強させていただきたいと思っておりますので、お集まりの皆さんいろいろ教えて下さい。本日はありがとうございました。

“「郷土の歴史と文化」を語る集い” 懇親交歓会・スピーチ

函館とロシア

佐々木 茂 (函館市文化・スポーツ振興財団理事長)



昨年12月に横浜で外国人居留地研究会の全国大会が「居留地の音楽・美術・文学」をテーマに開催され、私は「函館ハリストス正教会の聖歌」一本に絞って報告しました。

函館は1858年(安政5)にロシア領事館が開設されたロシアゆかりの地で1858年(明治5)に東京に公使館ができるまでの14年間、ロシアが日本に置く唯一の外交窓口であったこと。領事館境内に設置された付属聖堂はキリ

シタンが追放以来我が国で初めて建設されたキリスト教会であり、やがて聖ニコライによって日本人信者第1号が生まれ、明治4、5年頃には曲りなりに日本語に翻訳された聖歌が歌われていたことを話しました。しかし、これらの事がほとんど知られていませんでした。函館は歴史的にロシアとの関係を抜きに語れない街です。それは現在、ロシア連邦極東大学が唯一国外に置く分校が函館に存在している事実からも感じることができます。今、ロシアをキーワードとする総合的函館研究の促進と発信する意味は大きいと感じます。

もう1点は、近代日本建設の重要な柱となったキリスト教に関する総合的な研究が他の居留地に比べて極めて弱い

と感じました。その要因は、居留地があった都市には必ずミッション系大学が存在し図書館や資料センターで収集・保存・研究が営まれていることです。どういうわけか唯一存在していないのは函館なのです。その穴を埋める必要があります。カトリックもプロテスタントも聖公会は早くから独自の女学校を有していました。現在のミッション系ス

クールやキリスト教会、研究者等とタイアップしてバラバラの資料を集積する母体を作る必要を感じます。紀要の発刊も有効。当文化会がフィクサーになって進めることができるのではないか。

以上、今回の横浜大会に参加して感じたこと2点をお話しさせていただきました。

「郷土の歴史と文化」を語る集い” 懇親交歓会・スピーチ

世界を意識してきた函館人

船矢美幸 (函館朗読奉仕会会長)



北海道もそうですが函館も内地からの移民の子孫の集まりです。それぞれ出身のお国を誇りに持ちながら二代目三代目と続いてきたところ、どちらかという内地の他

を入れようとしなくてそれぞれのお国ぶりとのがいだと思います。その中で、内地の控えめで、夫を立てて従順な女性だと言うスタイルから見ると、函館の女性は不作法でずけずけものを言い、そして礼儀知らずかもしれません。しかし、反面函館の女性には港町の女として人情があって、ハートは温かく、そして古い流儀に縛られない、こだわらない進取の気性というのがあると思います。それは森本貞子先生の著書の中のジョンミルンの妻堀川トネさん、島崎

藤村の妻となった秦冬子さんから学ぶことができます。そういう意味で函館の女性はキカナイ女として函館の文化を支えてきたのだと思います。

ヘレンケラーがここ函館に二回来てくれたのは盲聾教育に熱心だった宣教師の妻たちの取り組みを受け入れていたことによります。今、遺愛高校の生徒たちはクルーズ船で来た外国人に通訳として英語学習に取り組んでいます。極東大学では松尾芭蕉の研修など日本の文化や歴史を学ぶロシアの若者がいます。

他を受け入れ、外国に目を向けてきたのが函館です。函館は古くから直接外国と交流していました。函館はこれから美しい景観だけでなく、国宝などを有する文化も併せて発信する時期を迎えていると思います。俳句をユネスコ無形文化遺産に登録を！の国際俳句交流協会(有馬朗人会長)の運動も行われており、港街函館に寄せられる期待を函館人として果たしてゆきたいと思います。

函館文化会「ホームページ」、「ブログ」の開設

インターネットの普及により、企業・団体等がホームページを持っていることが当たり前になっており、「函館文化会」に対する信頼度を向上していくには、会員を含めたユーザーの求める情報を常に発信していくことが必要です。

こうした中で「函館文化会」の知名度の向上と活動の推進のため、函館文化会の歴史や概要、事業の内容及び案内、報告などの情報を、インターネットを通じて全国・世界に発信することを目的に函館文化会「ホームページ」、「ブログ」を開設しております。一度ご覧いただき、ご感想・ご要望など事務局にお寄せください。

アドレスは、次のとおりです。

- ・ ホームページ <http://hakodate-bunkakai.com/>
- ・ ブログ <http://blog.livedoor.jp/bunkakai/>



令和元年度 函館文化会講演会

『最後の箱館奉行 杉浦兵庫頭誠』を演題に開催されました

函館文化会では、令和元年10月12日(土)函館市中央図書館視聴覚ホールにおいて「函館文化会講演会」を開催いたしました。本講演会は、文化振興事業の一環として函館市中央図書館との共催で毎年行われているもので、この度は元市立函館博物館館長 田原 良信氏を講師にお招きして「最後の箱館奉行 杉浦兵庫頭誠」と題しての講演で、台風19号の接近で生憎の雨模様の中にもかかわらず約110人の会員・市民の方々に参加いただきました。

田原氏は講演で、慶応2年(1866)に箱館奉行に任命された杉浦兵庫頭誠が残した「奉行日誌」を読み解き、その人柄や功績を解説した。杉浦は箱館奉行となった後、明治元年(1868)朝廷に箱館奉行所を引き渡し、明治2年には新政府の役人として再び函館に戻り明治10年まで開拓使判官を務めた。杉浦が奉行に着任後、外国人による傷害事件は治外法権の壁に阻まれる危険性のある外交問題にも粘り強く交渉を重ね外国人への優れた対応力と各国領事との信頼関係により最善の結果を得た。また、箱館奉行所を朝廷に引き渡す際は特に混乱もなく、さらに箱館戦争後の函館が平穏に経過したことは杉浦の人に対する思いやりもあるが、常に自分の考えをしっかりと持ちながらも、幕府の意向仰いで的確に対応しており、極めて有能な人物だったと述べ、聴講された皆さんは講師の話の吸い込まれるように聞き入っておりました。

なお、今回の講演内容については、講師の田原氏に要約されたものになりますが纏めていただきました。今一度講演会当時を思い起こし、ご一読いただければと存じます。



講演会会場の函館市中央図書館視聴覚ホール

令和元年講演会 (令和元年10月12日)

最後の箱館奉行 杉浦兵庫頭誠

元市立函館博物館館長 田原良信



講演中の講師・田原良信氏

みなさんこんにちは。今日はよろしくお願いたします。本日は「最後の箱館奉行、杉浦兵庫頭誠」を題して話をしますが、実は当初函館文化会からお話があったのは「箱館戦争終結150年に因むことを」と言うお話でした。私はどっちかという箱館戦争の方はあまり得意では無くどうしようかと思ったのですが、150年と言うことからすると箱館戦争の開戦前と戦争後の箱館の事実上のトップであった杉浦兵庫頭誠がこの戦争(実は箱館戦争の期間は箱館にいなかったのですが)にどう関わったかという視点からお話しできるのではないかと、この演題としました。

まず箱館奉行というものについてお話しさせていただきます

ます。幕末期に新設された箱館奉行は享和2年（1802）年から文政5年（1822）の第一期と安政元年（1854）から慶応4年（1868）の第二期の2度にわたって設置された幕府の遠国奉行です。

第一期の箱館奉行について

寛政年間（1790年代）のロシア南下政策への対応をするため、幕府は東蝦夷地を直轄し蝦夷地の取り締まり、蝦夷人（アイヌ）の撫育（保護）、キリスト教の布教禁止などの施策実施のため、享和2年（1802）に蝦夷地奉行を2名置きました。翌月に箱館奉行と改称され、享和3年（1803）函館山麓に箱館奉行所が開設されました。この後、文化4年（1807）に蝦夷地全体が幕府直轄地となって箱館奉行の役所を松前へ移し、箱館奉行は松前奉行と改称されます。こうして、文政5年（1822）に幕府から松前藩へ蝦夷地が返還され松前藩が複領となり松前奉行が廃止されるまでの間、11名の箱館奉行、松前奉行が任命されました。

第二期の箱館奉行について

安政元年（1854）3月に日米和親条約が締結され、翌年3月以降に箱館の開港が決定となったことから、幕府は同年6月享和年間以来30年ぶりの「箱館奉行」を再設置します。以前の役割に加え日米和親条約に基づく渡来外国船の平穏な取り扱い、および渡来外国船への薪水・食料・欠乏品の供給、また密貿易の禁止などが規定されるなど、箱館奉行の任務内容は多岐にわたることになりました。このため新たに箱館奉行に任命される人物は、主に江戸において海防や諸外国との応接等の経験者で有能な人材が当てられました。江戸と箱館に一名ずつ任命され、2名の箱館奉行によって諸問題は、江戸と箱館で共有しながらその処理に当たりました。第二期では13名の箱館奉行が任命されますが、実際に箱館に赴任したのは5名でした。箱館奉行は第一期、二期とも旗本出身で、江戸幕府では勘定吟味役や御目付からの昇任者が当てられることが多く、品川台場建設普請掛経験者等、開港や外国との貿易、交渉などに実績のある人が任用されています。中でも、堀織部正利熙は幕府に五稜郭の建設を上申し取り上げられるなど五稜郭の生みの親とも言える箱館奉行です。五稜郭が完成し箱館奉行所が元町から移設されます。五稜郭の箱館奉行所開設から2年後の大政奉還まで第二期の箱館奉行14年間の最後の奉行が杉浦兵庫頭誠ということになります。



基坂上の旧箱館奉行所庁舎・文化10年再建後、元治元年の五稜郭移転時までの箱館奉行所（函館市中央図書館蔵）

杉浦兵庫頭誠の来歴

杉浦誠は文政9年（1826）1月9日、幕臣久須美家に生まれ、嘉永元年（1848）杉浦家の養子となり家督を継ぎます。名は勝静、誠。通称は正一郎。号は梅潭（ばいたん）といいます。

万延元年（1860）6月「鉄砲業奉行」に任命、文久2年（1862）5月「二の丸御留守居開成所頭取」から8月「目付」に任命されます。この目付になったことがその後の杉浦誠にとっての大きな転換点になりました。9月には「將軍家御上洛の御供」、12月「浪土取扱掛」となり、松平春岳が上京に際して「差添（今でいう政策秘書官）」、その翌日には將軍に特別にお目見えができる「布衣（ほい）」となり出世コースを歩み始めます。文久3年（1863）1月松平春岳に同行して順動丸に乗船した際には、軍艦奉行勝麟太郎やその塾生等と同船、坂本龍馬とも会い懇談しています。その他新選組との関わりや京都西町奉行永井玄蕃とのつながりなど多様な人間関係をもっていたことが、その後の箱館奉行の政策や実務遂行に生かされているものと思われます。同年7月に長崎奉行に任命されましたが、同月には目付に転じ、9月に目付筆頭となりました。目付筆頭というのは目付を束ねることのほか、將軍に対しても軍事的なことも含めて政策全般に口添えできる立場となるなど、大きな権限を持つこととなります。

元治元年（1864）5月、將軍家茂のお供として京都から江戸へと帰還します。しかし6月に元治元年の政変に巻き込まれ、目付役は免職となり勤仕並寄合（非職）となって、元治元年から一年余謹慎状態に追いやられます。この苦節を経て、慶応2年（1866）1月、箱館奉行に任命され、2ヶ月間江戸城の勤務となり、蝦夷地のことを一生懸命勉強し箱館奉行の任に備えていたことが日記からうかがえま

す。その後3月には陸路で箱館へ家族共々着任します。それまでの箱館奉行がすべて単身赴任であったことを考えると、箱館に骨を埋めようという杉浦誠の並々ならぬ決意が伺えます。そして翌年9月には勘定奉行兼務となります。一度謹慎させられた幕臣が幕府の要職に復帰できたことは杉浦誠の優秀さを物語るものと思われま

箱館奉行としての杉浦兵庫頭誠の仕事

歴代の箱館奉行は、函館山麓の箱館奉行所時代も五稜郭内の奉行所時代も、箱館奉行は将軍家および国家の繁栄と安泰を願って諸行事を粛々と行っていました。執り行われていた年中行事は基本的に江戸城内での行事とほとんど同一のものでした。同月同日に江戸城と蝦夷地箱館奉行所で共通の行事を実施することで幕府の権威の大きさを示そうとしたのだと思われま

す。五稜郭奉行所の中で最も格式の高い大広間は、普段は使用されない部屋ですが、江戸城で行われる対面行事を同様に執り行うためにだけ使われています。五稜郭はヨーロッパ様式の城ですが、中身や性格はきわめて江戸幕府の定式に則った形の年中行事を実行するためのものだったことがわかります。また、東照宮への参拝も定期的に行われ、杉浦誠の江戸幕府への忠誠心の篤さがその仕事ぶりからうかがえます。



最後の箱館奉行 杉浦兵庫頭誠
(国立国文学研究資料館蔵)



箱館裁判所総督 清水谷公考
(函館市中央図書館蔵)

し、また水夫の乗馬は今後認めない事を決定させています。場合によっては、治外法権の壁に阻まれる危険性もある外交問題でしたが、杉浦誠の外国人へのすぐれた対応力と各国領事との信頼関係の高さにより最善の結果を得ています。

開港場箱館において、蒸気船に供給する石炭の需要度は高く、炭鉱の開発は大きな課題でした。杉浦誠は慶応2年(1866)イギリスの鉱山技師エラスムス・ガワーに、費用がかかりすぎるため操業を停止していた岩内茅沼石炭山の状況調査を依頼し、茅沼炭山の採炭再開が十分可能なことが確認されると、翌年エラスムス・ガワーの雇用と石炭の採掘が決定され、新鉱までの道敷き、線路の敷設、輸送のための蒸気船、箱館港での石炭蔵の建築などにも尽力します。石炭を積んで岩内を出港した箱館丸は慶応4年4月13日に入港しますが、既にこの時点の箱館港は幕府から明治新政府への引き継ぎのために蔵などが封印されていて、結局のところ箱館丸で輸送された石炭の受け取りは新政府に引き継がれることになり、杉浦誠はその受け取りには関係ありませんでした。その後、箱館戦争の影響により採炭は中断し、再開後は開拓使が運営することになりました。

新政府への引き渡しと奉行所を去る

慶応4年(1868)2月、神奈川組頭より箱館組頭宛ての書状が届けられ、王政復古および鳥羽伏見の戦いの詳報を得た箱館奉行杉浦誠は、箱館に変事が及ぶことを憂いて箱館警衛の強化を図ります。五稜郭内の見回りを実施し、仙台・会津・南部・津軽・庄内・松前各藩の留守居役を招集して厳重警戒が必要な旨の通知を行い、各国の領事に対しては内地の形勢の状況説明を行いました。また、配下一同には非常時の戦闘服の着用を命ずる一方、いざというときのための陣容を整えるなど優れた統率力を発揮し、江戸に対しては血判を取った形で建白書を送っています。建白書の内容としては

○賊船が来襲し無名に砲撃したり、在住外藩等が暴発した場合は、決戦する。

○朝命を奉じて軍艦が渡来し穏やかに当島を引き渡すよう求められたら、まず面会し朝命とあらば引き渡すのが筋だが、江戸表からの指図を待たずに道理を聞き入れられない場合は決戦し、一死を以てご厚恩に報いるまでである。

との覚悟が示されています。杉浦誠としてはこうした意見も具申したが、最終的には江戸幕府から「朝廷の命を遵奉し、支配場所の引き渡しを済ませた上で、部下一同を連れ

て帰府せよ」との指示に従って新政府への引き渡しを行うことになりました。

杉浦誠の考えは、箱館の引き渡しを受けた新政府側は実務に馴れた人材が必要となるため、足軽などの下級職は全員が新規召し抱えになると考えられることから、当地にとどまりたい者は定役元締以下、足軽・手代まで新政府に引き続いて雇用されるよう取りはからうというものでした。奉行以下組頭、調役などの上級職者は江戸へ引き揚げた場合でも仕事や生活面はある程度保証されますが、下級職の場合は、江戸へ帰府した途端に生活困窮者に陥ることを憂いての提案でした。また、樺太におけるロシアとの国境警備においても、すべて新規の警備兵に入れ替わるよりも、熟練した幕府の警備兵が引き続き担当した方が新政府側にとってもメリットが大きいことを見越しての提案でもありました。慶応4年（1868）閏4月26日五稜郭内の役所表座敷一の間で、堀清之丞、小野淳輔へ五稜郭を引き渡し、箱館奉行杉浦誠以下一同は五稜郭を退去しました。この後、清水谷総督が函館に到着し、夕刻五稜郭の役所に入り、翌4月27日に五稜郭へ出頭した杉浦は、箱館裁判所総督清水谷公考と対面して、御達之趣書面2通を受け取りました。この御達之趣の内容は次のようなものでした。

金穀、武器を引渡したのは神妙の至りであって、朝廷にも言上する。これまでつとめていたものは、上下一同、衣食に苦しからざるよう取り計らう。人材にしたがって任用をする。とあり、箱館奉行杉浦誠が新政府への引き渡しを行う中で、最大の念願であった定役元締以下足軽手代までの新政府への受け入れが確約されることになりました。

新政府への引継ぎの直後、慶応4年5月4日に幕府軍艦回天丸が箱館へ入港し、杉浦誠は回天艦長甲賀源吾、開陽艦長荒井郁之助、御勘定田中彦八の訪問を受けます。回天丸入港の目的は、江戸表の財政切迫のため箱館の米・金を江戸へ回漕することでしたが、杉浦は新政府へ財産等を全て引き渡した後のため困難と返答し、代わりに江戸へ帰府する上級役人を連れ帰ってほしい旨の依頼をします。甲賀源吾と荒井郁之助とともに幕府海軍の幹部であり、特に荒井は海軍副総裁榎本武揚を補佐する立場にあった人物であり、蝦夷地開拓の可能性を探るために蝦夷地統治の責任者である箱館奉行杉浦誠が残留する箱館の実情調査に来函したと考えられます。蝦夷地の全てを掌握する杉浦誠から得られた情報に従って展開されたのが、約半年後に起きた箱

館戦争の蝦夷地上陸作戦であったとも考えられます。5月7日10時頃、江戸へ帰府願いの上級役人等が乗船した回天丸は江戸へ帰りますが、杉浦誠は残留し、全ての残務整理が終了した6月2日に組頭・調役および家族共々総勢93名で江戸へ帰任しました。そして、帰任後は箱館残御用取扱、大目付、公議人を任ぜられています。

箱館戦争後、明治2年（1869）に開拓使が置かれると、杉浦誠は明治新政府の外務省へ出仕し、開拓権判官に任命されて再び箱館へ赴任し、翌明治3年4月に函館支庁事務担任となつています。同年5月札幌開拓使庁が開設し、函館は出張開拓使庁となり、杉浦は明治5年（1872）開拓判官に任命されます。

明治6年（1873）江差暴動と言われている檜山地方での暴動を鎮圧し、また、現在同様のシステムで函館の水道敷設を計画しています。水道計画は残念ながら資金の工面がつかず断念していますが、もし出来ていれば函館が日本最初の近代水道が施設された町となったかも知れません。明治9年（1876）、明治天皇が函館に行幸されたときは、函館の責任者として対応に尽力しました。そして明治10年（1877）に開拓使を退官し東京に帰りましたが、明治33年（1900）75歳で没しています。

こういう形で杉浦誠は幕末維新という激動の流れの中で特に人に対する篤い思いと歴史の大きな流れに対しては自分の考えをしっかりと持ちながらも、幕府の指令に従一的確に対応しています。きわめて有能な人物でした。これまであまり取り上げられることが少なかった人でしたので、これから新たにわかることもあるかと思いますが、機会がありましたらまたお話しさせていただきたいと思います。少し長くなりましたが、これで私の話を終わらせていただきます。ご静聴ありがとうございました。



五稜郭内の箱館奉行所庁舎・元治元年6月落成、明治4年解体
(函館市中央図書館蔵)

特集 函館の歴史と文化を語り継ぐ ⑤

～ テーマ「路面電車」～

函館文化会が取り組む「郷土の歴史・文化の伝承」に因み、毎年発行する会報に函館の歴史・文化のテーマを取りあげ、会員の皆さんにそのテーマに沿った思いやエピソードなどを綴っていただき後世に残していきたいと、特集「函館の歴史・文化を語り継ぐ」を継続して取り組んでおります。

第5回目のテーマは、“市電”の愛称で親しまれ函館の街を走る「路面電車」としました。大正2年(1913)に函館に路面電車が走り始めて106年、多くの市民が通勤・通学に、また、買い物などに利用されてきたと思いますが、そんな市民の足としてなくてはならない「路面電車」にまつわる思い出話を函館市企業局交通部長大久保孝之氏の特別寄稿を始め、5人の会員から投稿いただきましたので、ご紹介いたします。

なお、次号(第83号)第6回のテーマは“函館山”としました。別掲応募要領(23ページ)を参照のうえ、ご投稿をお願いします。



旧棒二森屋前を走る「路面電車」

市電の存続のために

函館市企業局交通部長 大久保 孝之

日頃より、市営路面電車事業につきまして、ご理解ご協力をいただき感謝申し上げます。

大正2年(1913年)、函館の街に路面電車が走り始めてから、今年で107年となります。これまで函館大火、太平洋戦争、経営危機、バス事業の移管、路線の廃止など歴史の波に翻弄されながらも、今日も市民の日常の足として運行させていただいております。

残念ながら現在、公営の路面電車事業は、全国で5都市、札幌、函館、東京、熊本、鹿児島となってしまいました。函館市企業局といたしましては、これからも将来にわたって安心できるサービスの提供と安全運行の確保を図るため、函館市交通事業経営ビジョンに基づき効率的な事業運営を行いながら、引き続き市営交通として事業を継続してまいりたいと考えております。

さて、私は生家が栄町にあったことで高校時代(函館東高校)の昭和52年からの3年間は通学にもっぱら市電を

利用させていただいておりました。当時は栄町回り(平成4年4月廃線)、ガス会社回り(平成5年4月廃線)があり、いろいろな系統がありました。資料をみますと当時の一日あたりの利用客数は、約5万人。この時代は、利用客の減少が急激に進行していたときでした。

今から56年前の昭和39年の利用者ピーク時には、全市の人口が約25万人。今の人口とほぼ同じですが、市電利用客は一日あたり約13万5千人、往復利用するとして4人に1人以上の市民が市電を毎日利用していたことになります。今では想像のつかない驚きの数字です。ちなみに令和元年度実績では一日あたり約1万5千人となっております。

市電の利用客の減少が進行した要因といわれているのが、ご承知のとおり、ひとつがモータリゼーションの進展です。一般家庭に自動車が徐々に普及し、経済成長に伴う所得の増加と相まって便利な交通手段として一家に一台の時代をむかえます。特に地方都市においては、その傾向が顕著に現れ、買物、通勤など日常の足として自家用車を使うこと

があたりまえになりました。一般的に、年間3千人超えの人口が減る本市では自家用車の保有台数も比例して減少するものと思われませんが、保有台数は近年ほぼ横ばいで推移しており、一家に2台3台という家庭も多くなっており、

もうひとつの要因が、市域外縁部への人口の移動です。昭和48年の亀田市との合併前の市域では1ヘクタール(100メートル四方)あたりの人口が110人を越えた過密状態の街でした。特に西部地区や中央部地区ではこれをはるかに上回る180人にも達する地域がある超過密市街地でした。今の東京23区の人口密度に匹敵します。現在のように高層マンションなどが少なかった時代のことです。路地には長屋が建ち並び、通りに面した一軒家は庭もなく、雪を捨てる場所などもない状態です。当然、自宅に駐車場などありませんから、路上駐車が横行していました。

その後、急激な高度成長の時代で人々の暮らしの質が向上してゆくなかで、市民は良好な居住環境を求め日吉、富岡、山の手、東山、美原、昭和、桔梗などの地域に居住地が広がっていくこととなります。これは、いたって自然な流れであります。その結果として、市電沿線の居住人口は減少し、利用客も年々少なくなりました。昭和40年当時の市電沿線43町の居住人口は、約17万人で現在は約6万人ですから、三分の一近くまで減少しました。本市の地勢は、3方を海に囲まれており、市街地は必然的に北方向にしか広がることができないことから、全国の地方都市と比較すると市街地の拡大が進まなかった都市であります。現在の本市の市街化区域内の平均人口密度は、約50人／ヘクタール、市電沿線では約43人／ヘクタールであり、都市計画で定める市街化区域の基準人口密度の40人／ヘクタールを上回っており、また医療・福祉・子育て施設・商業などの生活利便施設も日常生活圏内に立地しており、都市構造としては、まだ比較的小規模コンパクトシティといえる現状です。

従来、市電沿線は、地域の方が日用品等を購入するための小規模な沿道型商業施設が立地し、賑わいのある街路でありました。しかしながら、近年はシャッターの閉まった店舗が目立ち、特に物販店の減少は著しいものがあります。沿道背面の居住人口の減少と消費行動の変化とともに、店舗が市電沿線にある必然性が薄れてきた結果であります。今の時代、インターネットにつなげれば、買えないものはありません。100年以上の年月を経て市電の置かれている社会環境は大きく変化しました。

近年の利用客数の推移をみますと、本市の人口減少が進



営業車両中最も古い「530号」(末広町付近)

むなかでも年間550万人のラインを上下しながらほぼ横ばいでキープしており、これは、外国人を含めた観光客の利用が好調であることが要因であり、大型クルーズ船の寄港誘致、各種イベント・コンベンションの開催、函館ブランドの魅力強化のための各種施策など交流人口の拡大を図る取り組みの効果が現れているものと考えておりますが、年明けからのコロナ禍の影響で観光客の利用は激減し、また外出自粛の影響により市民の利用も減少し、今年度の旅客運行実績は昨年度を大きく下回することは確実な状況であります。将来に向けて、観光客に依存しない安定的な経営基盤を構築してゆくことが市電の存続のための課題であることを痛感しております。

本市では、平成30年3月に都市計画マスタープランのアクションプランとして「立地適正化計画」を策定しました。将来、人口減少が進行することで、今まで一定の利用人口にささえられていた交通機関を含めた生活基盤となる各種施設の維持が困難とならないように、一定のエリアに居住と生活に必要な都市機能施設を誘導することで持続可能な都市をつくっていくとともに徒歩や市電、バスなどの公共交通を利用し日常生活をおくることができる都市環境を形成してゆこうとするものです。計画は、移住を強要するものではなく、あくまでも誘導にとどまるものですが、市電沿線の居住人口、事業所などがゆっくりとしたペースで増加してゆき、将来、新たな形の沿道環境となるように、まちづくり施策を進める必要があるものと考えております。

函館市電を先人が築いた歴史ある大切な財産として、また市民生活と町並みのなかに欠くことのできないものとして将来にわたり存続させるため、「待たずに乗れる便利で快適な市電があるところに住みたい」と感じてもらえるよ

う、サービスの提供、安全確実な運行を続けてゆくことが、私どもの使命だと感じております。

これからも、「市電」を応援のほど、よろしく願い申しあげます。



路面電車と観光&移住生活

安立 真由美

30年ほどの東京生活ののち、2010年に函館に移住してきました。JRや地下鉄の路線が充実し

ていた首都圏では、車の運転の必要性を感じることはまったくなく、実際、勤務先でも「車通勤禁止」が普通。運転免許を取るなんて考えることもなくきたのですが、函館に来てびっくりしたのは、超車社会という現実でした。

知り合った人は、口々に「車なしなの?! それは大変でしょ」「坂は? 冬はどうするの?」「さっそく運転免許取らなきゃね」と心配してくださったものです。それでも私は迷うことなく、こう答えました。

「大丈夫! 市電があるから」

私が住むことを決めたのは、青柳町。函館駅前から2番(谷地頭行き)の市電に乗って5つめの電停が「青柳町」で、ふだんは12分に1本、函館駅や五稜郭、湯の川に向かう市電が来ます。電停から海側に向かえば、すぐに潮の香りの住吉漁港。山側に向かえば、函館公園を抱く函館山の自然が色濃く感じられる町。そこにのんびりと分け入るように、穏やかなモーター音を響かせながら進む市電は、私にとって函館の重要なトキメキ要素のひとつでした。

また、この辺の起伏のある地形は、市電が坂を上ったり下ったりする姿が、実に「絵になる」もの。1989年公開の映画『キッチン』に登場する、ノスタルジックな路面電車と街並みの映像は、当時東京に住んでいた私の心をキュンととらえたものです。

もしも、函館で会社勤めをする、子育てをする、量販店で買いものをする、繁華街で遊ぶなら、今や街の中心である北部地区(美原・桔梗など)を選んで、運転免許をとっての車生活が便利なのでしょう。ただ、旅の延長で、西部地区の旧市街地に身を置き、歴史をもつ街並みや海山の自

おおくぼ たかゆき 昭和36年函館市生まれ。昭和59年函館市に勤務、土木部道路建設課長、都市建設部都市計画課長、同部次長、新外環状道路整備推進室長などを歴任し、令和元年5月に函館市企業局交通部長に就任、現在に至る

然を楽しみたいと思って移住してきたのだから、多少大きさですが、「私は市電とともに生きていく!」と大声で叫びたいと思います。

さて、移住以来、ご縁があって仕事で関わらせていただいているのが、函館市公式の観光情報サイト「はこぶら」です。スマートフォンやパソコンで函館観光について調べるときに、参考になるような記事や、魅力を感じてもらえる特集を日々提供しています。

市電に関して手がけた記事の一例を挙げると、一番人気が「初めての函館市電、乗り方ガイド」。運行系統や1日乗車券の解説に加えて、「どこから乗るの?」「行き先の見分けかたは?」「料金はどうか?」などなど、市電を利用するときを知っておきたい乗り方の基本が、意外にもお役に立っているようです。

路面電車のないところから来た人にとっては、大通りの真ん中を1~2両編成の電車が堂々と走ったり信号待ちしていること、乗り込むのは歩道からではなく、道の真ん中の「離れ小島」からということなど、素直な驚きがいっぱい。この特集で、乗り方を予習して来ていただくとともに、「へー、そうなんだ」という軽いカルチャーショックを楽しんでいただける内容になっています。

また、乗るだけではなく、見て・撮って楽しむのも市電の醍醐味です。「函館の路面電車、おすすめ撮影スポット」という特集では、絵になる車両を絵になる風景の中でカメラに収めるポイントを伝授。先に触れた青柳町の坂上りをはじめ、八幡坂と港、基坂と函館山、旧丸井百貨店(函館市地域交流まちづくりセンター)のある十字街など、厳選7スポットをご紹介します。

この記事に掲載した以外に、私のとっておき撮影スポッ

トをお教えしましょう。大三坂の途中から電車通りを見おろして、坂の桜やナナカマドを入れ込んで市電を撮るカット。特に箱館ハイカラ號はお気に入り、今年新型コロナウイルスの影響で運休になってしまいましたが、例年は、運行時刻に合わせて坂で待ち構え、ちょうど通りかかったところを狙うカメラマンと一緒にすることもありました。

ちょっと変わった特集としては、「市電ファン興奮！駒場車庫ガイド」というものもあります。駒場車庫内部は、原則として一般公開は行われていませんが、この記事をあえて用意。それは、正面の歩道から車庫の外観や停まっている電車を眺めたり、車両が一般道へ出入りするのを近くで見ることが、市電ファンには無上の楽しみとなっているからです。

函館市民にとっては、電車通りを車で走っているときに、市電の車両が駒場車庫に並んでいたり、信号が変わって道路へ出てくるのは日常の風景かもしれません。でも、路面電車になじみのない人には、街なかでのこれは、ちょっとした驚きの風景。もしかしたら、人気のアニメーション「きかんしゃトーマス」を思い出しているかもしれません。私も、駒場車庫前の歩道が大好きで、時間があれば足をとめて楽しんでいます。

そのほか、特別な車両を紹介する記事もいくつかあります。「レトロ市電・箱館ハイカラ號の楽しみ方」「港まつりに花を添える、函館市電の花電車」「函館の冬の風物詩、ササラ電車のご紹介」。ふだん目にする車両以外に、特別な役割をもった個性的な車両があることは、函館の路面電車



青柳町付近を走る「箱館ハイカラ號」

をさらに魅力的にしています。次は、映画やドラマの撮影に大活躍する、現役最古参の530号（ダークベージュと濃紺のツートンカラー）の特集記事を企画中です。

市電中心の生活をしてみて、雨や風や雪の日にもほぼダイヤ通り運行している存在に、頼もしさを感じます。街探索のエリアは路線全体でほぼカバーされ、お酒を飲んでも安心して帰ってこられるのもメリット。私の函館生活は市電とともにあります。

函館の路面電車がいつまでも愛される存在として走りつづけられますように。利用者としても、函館ファンとしても、変わらず応援していきたいと思えます。



あだち まゆみ 昭和35年三重県桑名市生まれ。お茶の水女子大学卒業後、東京の出版社に勤務。平成22年、函館移住。函館市公式観光情報サイト「はこぶら」編集長、ブログ「函館・青柳町暮らし」執筆者として、函館の魅力を全国に発信する

令和2年度「函館文化会講演会」を開催します

今年度も函館市中央図書館との共催で「函館文化会講演会」を次のとおり開催します。

今回は、講師に北海道新聞社小樽支社長 相原秀起氏をお迎えし「函館・空の事件簿」～全日空ハイジャック事件から見えたもの～と題しての講演です。

函館の空の三大事件といわれる、「ばんだい号墜落事故」(1971)、「ソ連の最新鋭戦闘機ミグ25亡命事件」(1976)、そして「全日空機ハイジャック事件」(1995)ですが、今回は、全日空機ハイジャック事件の取材を中心に、その時代の背景などを含め、ほかの二つの事件の知られざる話も紹介していただきます。

会員皆さんはもとよりお近くの方にもお声がけいただき、聴講くださいますようお願いいたします。

- 開催日時 令和2年10月17日(土)
午後1時30分開演(午後1時開場)
- 会場 函館市中央図書館視聴覚ホール
(函館市五稜郭町26-1)

※事前の申込不要です。直接会場にお越し下さい。
なお、新型コロナウイルス感染症拡大防止のため聴講定員を70名とさせていただきます。また、聴講の際には、マスクの着用をお願いいたします。



函館と電車と本町界限

増井 慎吾

日本国内で路面電車を擁する事業者は18にのぼる。その内、関東以北の政令指定都市、県庁所在地以外で走る唯一の存在が函館市電である。とは言え元を正せば道庁が最初に置かれたのだから当然と言えば当然なのかも。しかし、今では中核市としてすら危ぶまれる状況の中で善くぞ走らせているものだと感心するばかり。因みに県庁所在地以外で路面電車を運行するもう一つの事業者は愛知県豊橋市の豊橋鉄道だ。

さて函館で電車という路面電車のこと。今でこそ新幹線へのアクセス電車として活躍する「はこだてライナー」が走っているが、それまでは汽車は国鉄、電車は市電と決まっていた。その路面電車の源流は東京で走っていた馬車鉄道で、その規格を範として発展したのが今の路面電車なので何かと東京から影響を受けてきた。事実、馬車鉄道の最初はお古の車体を戴いたし、大正昭和と続いた大火で消失した車両を補ったのも東京だった。オイルショック迄の好景気で路線を伸ばし増えた輸送量を捌く為導入したのも東京都電からの譲渡車だった。そして今も除雪に活躍する2両のササラ電車は東京市電として明治時代に誕生し昭和11年に除雪車へ改造されたヨヘロ形が原型とあって多くのファンから注目を集めている。

さて函館で電車という路面電車のこと。今でこそ新幹線へのアクセス電車として活躍する「はこだてライナー」が走っているが、それまでは汽車は国鉄、電車は市電と決まっていた。

その路面電車の源流は東京で走っていた馬車鉄道で、その規格を範として発展したのが今の路面電車なので何かと東京から影響を受けてきた。事実、馬車鉄道の最初はお古の車体を戴いたし、大正昭和と続いた大火で消失した車両を補ったのも東京だった。オイルショック迄の好景気で路線を伸ばし増えた輸送量を捌く為導入したのも東京都電からの譲渡車だった。そして今も除雪に活躍する2両のササラ電車は東京市電として明治時代に誕生し昭和11年に除雪車へ改造されたヨヘロ形が原型とあって多くのファンから注目を集めている。

ここからは私事になるが函館の電車事情に似て東京で生まれ1歳を過ぎた昭和41年、五稜郭公園前電停から目と鼻の先、今の本町会館の裏に住むマクノートン宣教師の後継として師が司る教会に赴任し家族で函館に住み始めたのが父であり息子が拙者である。前置きが長くなったが函館と東京いう共通の縁で繋がっている私にとって慣れ親しんだ電車と本町界限を字数が許す限り回顧してみたい。

ひとりで外遊びをする歳になると決まって出掛けたのが今の北洋銀行、旧拓銀前だった。そこには湯の川、ガス会社そして函館駅前から伸びる各路線をいずれかの方向に振り分けられる複線の三角ポイントが有って、ひっきりなしに来る電車を各方面へ捌くための操車塔が建っていた。そこに立ちながら濃紺と茶色の重厚な雰囲気なのを「黒電車」と呼び、笹色とクリーム色の軽快なのは「白電車」と呼んで飽きもせず見ていた。

と呼び、笹色とクリーム色の軽快なのは「白電車」と呼んで飽きもせず見ていた。

そんな或る日、突如現れた赤い帯に黄色い電車。それは前述した東京から函館へ譲渡された1000形で、昭和45年から1年間ほど都電カラーのまま市内を走っていた。盆暮れに帰省した折、国電大塚駅から都電荒川線に乗り換え沿線の曾祖父宅へ行くのに乗った電車が函館で走っているのが俄に信じられず驚愕したのを今も記憶している。時は流れて平成22年春、幼い頃に見た元都電の1006号車が廃車の折、サヨナラ運行を見届けたのも既に10年が経とうとしている。

話を五稜郭公園前電停に戻そう。ここは各方面への乗り換え電停も兼ねていたので降りる客の殆どが午前はピンク午後は青地の台紙に平日は黒、土日は赤色の文字で印刷された乗継ぎ券を受け取って目的地を目指したものである。家が最寄りの私はここで降りる訳だが、運賃を入れる料金箱の横には手動で小銭を戻す円筒形のつり銭機が有って両方を器用に扱いながら客をさばく運転士の姿に強い憧れの眼差しを送っていた。そしてその羨望が本物の鉄道員になる道へ繋がる訳だが、三つ子の魂百までとは良く言ったものだ。

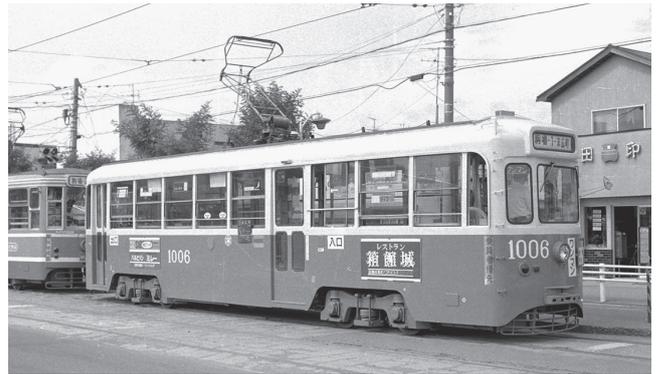
さて当時の本町界限というと北のどん詰まり風情だったが、昭和45年に十字街から丸井百貨店が移転してくると一変。更にハイショップ・ホリタが建つと函館の中心街へと変貌した。思い出をたぐり寄せれば中央病院前の立体駐車場は千歳鶴で有名な五稜正宗酒造、後の日本清酒の工場跡地だ。そこは丸井移転の前後は広場だったので良く野球をしたが長打をヒットすれば倉庫の屋根に上げてしまい泣く泣くゲームセットとなったのも思い出の一つ。

電車通り沿いに目を転ざると宮前町のウオツ模型店と人気を二分していた模型とオモチャの「あさひ屋」が有った。これこそプラモデルや鉄道模型といった私の趣味道を拓く礎となった原点である。そのあさひ屋の並びにはナウでヤングな学生達が集う喫茶店のトップス、向かいにはパチンコ・ガチャ万、横にはカワイピアノにラーメン満龍、それに今も残る赤い風車に酒まんじゅう屋などなど、思い出が尽きない風情がそこかしこに有った。

時同じくして丸井とホリタの向かいの拓銀やカメラのカナミを繋ぐ地下道が出来たが、そこにヒッピー風のなりをした針金細工師が座り、今流行の雑貨屋のように手作りアクセサリーを売っていた。子供ながらその手さばきに魅力を感じ仲良くなった細工師から手ほどきを受けて見よう見まねで針金細工を作ったものだが、その時のラジオペンチは今でも手で現役だ。さて他のエピソードを書こうにも字数が多くなる故、選んでいきたい。

最後に欠かせない思い出を一つ？と問われたなら小さな黒電車のことを述べてみたい。

函館みなと祭で運行される華やかに装飾された花電車は誰もが知っている。だがその雰囲気とは懸け離れた黒い電車が車列を追い掛けコトコトと走っていた。この正体は大火後の昭和10年に函館船渠で道産子電車の長男坊として造られた301号車だ。件の東京都電導入で廃車となり駒場車庫で移動機械として昭和56年まで保存されていたが、営業運転から退いてから数年間、花電車と組んで市中を走っていたのを大文堂書店の前で見ている。乗りたくても乗れず近くを走っているのを指を咥えて見ることも出来ない小さな黒電車だったが、その前を走る花電車にしても300形の車体下半分を残して詭えられた花電車用の車両だということをご存じだろうか。車庫公開の時は自由に乗り降りできて汽笛まで鳴らせるのだから乗れなかった自分にとって



昭和55年に駒場車庫で撮影した元東京都電1006号

は嬉しい話である。願わくば札幌郊外の北海道開拓記念館(北海道博物館)で非公開保存されている307号車を再整備して線路の上を走らせたいが個人の思いでは何ともし難い。

遂に字数が尽きた。小さな頃とは言え多くの事が語れる函館の路面電車には沢山の魅力が満ちている。この先歳を重ねても思い出を生み出しながら色褪せず変化を見せる函館の街を走るであろう路面電車を見つめながら筆を置きたい。



ますい しんご 昭和40年東京生まれ。1歳から14歳まで函館で育つ。高卒後に広告代理店を経て東武鉄道に入社。勤続20年の間に駅係員、電車乗務員を経て駅務区および乗務区助役、駅長を歴任。退社後帰函し平成23年グレイスモデルを設立。現在はプラモデルの金型設計等を営むほか函館山ロープウェイにも勤務



函館と路面電車

末永玲子

函館ほど路面電車が似合う街はない。特に青柳町から谷地頭に下り、函館山のすそ野へとむかう雰

囲気はなんともレトロである。終点に着くと函館八幡宮の鳥居がまず目にはいり、続いて神社に通じる階段とともにうっそうとした杉林が見える。神秘的で神宿る町のような。芭蕉の「古池や蛙飛び込む水の音」はあの函館八幡宮の古池が一番ぴったり合うように思う。私は結婚するまで山小屋喫茶の横道を上がった一番てっぺんに住んでいた。子供の頃は家にはお風呂はなかったので谷地頭温泉や勝田温泉によく行っていた。谷地頭は私のふるさとのようなもの。

この鎮守の森に囲まれた谷地頭には路面電車がよく似合う。

そしてもうひとつ電車が似合う場所が十字街だ。十字街の電停でまず目に入るのがキノコ型の支柱だ。支柱の上には、人が入れそうな小さな部屋がある。今では登れないようになっているが梯子が設置されている。この塔が交差点角地、それも車道と歩道の間建っており、なぜこんなところに？と不思議に感じるだろう。私の子どもの頃から大人になってもこのキノコ型支柱が大活躍していた。ここは十字街電停から谷地頭方面と函館どつく方面への分岐点である。分岐するためには、進行方向を切り替えるための

ポイントが必要で、それを操作する作業も必要であった。調べてみると当初は、交差点近くに信号手詰所が設置され、信号手が車道を横切って軌道に立ち入って切り替え作業を行ったとのこと。しかし、自動車が増えるにつれて安全性に問題が出てきたので、1938年以降ポイント操作を電動化することになったが、それでも現場を見ながら操作を行う人が必要だった。そのためキノコ型の市電操車塔(SwitchTower)が設置され、この中に職員が登って入り、電車信号表示とポイント切り替えを目視しながら遠隔操作していたとのこと。資料によれば、1969年当時このような操車塔が函館市内に6基あったという。今でこそ函館市電の分岐は十字街のみだが、かつては系統が複雑で、宝来町、松風町、函館駅前、五稜郭公園前、ガス会社前(亀田)にもあり、十字街のような操車塔が設置されていたという。宝来町のは中学校時代の同期生の橋本時計店の前にあった。懐かしく思い出される。十字街交差点の市電操車塔は1939年9月に設置され、函館市内で唯一・最後の現役操車塔として1995年6月まで使用されていた。ちなみに設置当時は現在地ではなく、交差点向かい側に建てられていたが、道路改良や北海道銀行十字街支店建築に伴い、廃止後の1995年9月に現在地に移設保存された。使用停止から約25年、今も当時の姿が現場に残されているのは全国でもここだけで、そういう意味では国内最古で、他では見られない貴重な市電操車塔であるといえる。この市電操車塔を含めた十字街一帯の風景から函館どつく方面に向かう路線沿いには函館市地域交流まちづくりセンター(旧丸井百貨店)、二十間坂、相馬株式会社、基坂と函館山、八幡坂と函館港、市立函館郷土資料館等々、市電に似合うスポットがそこそこに沢山ある。

函館市民の足であった市電も1978年11月ガス会社前(亀田)～五稜郭駅間の廃止に続き、1992年4月宝来町～松風町間のいわゆる東雲回りも廃止になった。車社会になる予感もあり、線路のないほうがすっきりして良かったと感じたのを覚えている。しかし1993年4月函館駅前～ガス会社前～五稜郭公園前間廃止となった時はさすがに寂しさと不便さを強く感じた。

電車は線路のある所しか走らないのでルートはわかりやすく、揺れも少ない、冬でもほとんど遅れることがなく、なにより排気ガスを出さず環境にやさしい。電車愛好家と



十字街交差点に今も残る「市電操車塔」

しては市電が徐々に縮小されていくのは残念であった。昔は電車に乗ると車掌さんがいて、乗車料金は車掌さんに払っていた。しかしその車掌さんも今はいない。いつの頃からかワンマンカーになってしまった。

2007年から運行されている「箱館ハイカラ號」は、タイムスリップしたような懐かしくほのぼのした温かみを感じるチンチン電車である。おしゃれな制服姿の女性車掌さんがいて、観光客に大人気の函館で一番のおしゃれな古き良き時代を彷彿とさせる観光函館の目玉電車である。また2007年に導入された超低床庫(らっくる号)は乗降口や車内の段差が解消され、車いすにも対応したバリアフリー電車である。ここ函館は福祉の歴史も長い。明治期、障がい児教育がほとんど顧みられない分野であったが、1895年来函したメソジスト教会の宣教師ドレーパー氏の母C・Pドレーパー(Draper, Charlotte Pinckney)夫人が、青柳町に借家を求め貧しい盲人の子どもたちを集めて養育する訓盲会を開くと言う歴史を持っている。このような土壌の函館であるからこそ障がい者に優しい電車はこれからも函館に似合う電車として発展していくだろう。今年はコロナウイルスという新しい感染症対策に世界中が闘っている。「Stayhome」が叫ばれ、行動も制約され、色々な事を考えさせられる年となった。価値観や生き方も変わるであろう。テレワークのできる仕事、テレワークでは無理な仕事が仕分けされて行くのだろう。函館にいても出来る仕事は増えていくと思われる。本当の幸せとは何かを考えるきっかけにもなったように思う。

このような土壌の函館だからこそ、時代を先取りし経済優先だけで進むのではなく、幸せ度ナンバーワンの街をめ

ざせたら素晴らしいと思う。空気のきれいな汚染のない街として電車という交通機関を大切に守り、海の幸、山の幸豊かな函館の景観に似合う路面電車の街として発展してほしいと願う。新井満さんの「この街で」での歌のようにこの街で生まれ、この街で育ち、おじいさんに、おばあさんになるまで過ごしたい街になることが夢である。

参考文献

『函館市史』
『函館の路面電車100年函館市企業交通部編』
『函館市公式観光情報サイト』



すえなが れいこ 昭和21年留辺蘂町温根湯生まれ。大学卒業後、函館市内高等学校に教諭として勤務、平成7年に退職。現在市内高等学校で非常勤講師



「記念乗車券」を豆本で発売

櫻井健治

大正2年に函館で路面電車が走り始めてから106年が経過する。

この長い歴史にあって様々な記念乗車券が発行・発売されてきた。残念ながら、私はその種分野の蒐集家ではないので、詳細は承知していないのだが…。

直接路面電車の話ではなく、いささか脱線するが、今から35年前の昭和60年秋のことと記憶する。当時、函館市交通局（現在は函館市企業局交通部に改編）で営業を担当していた伊藤郁男氏が私のもとに来られ、「来年、昭和61年2月20日が石川啄木の生誕百年となるので、“函館・啄木ゆかりの場所めぐり 市電・市バス共通一日乗車券”を発行したいので、何としても協力してもらいたい」旨の依頼があった。

その頃私は、豆本（タバコ箱の大きさ前後が標準）の蒐集に凝っていた時代であり、伊藤氏に対し、「せっかく作るのなら、一枚ものの乗車券だと、乗った後に捨てられてしまうこともあるし、後々まで記念に残る形の乗車券、これは面白そうだから交通局まで買いに出かける位の豆本の形にしませんか」と提案したのである。

昭和61年は、「啄木生誕百年」と云うこともあって、啄木ゆかりの各地では、様々なイベントが企画されていた時でもあり、私の豆本記念乗車券の提案は快諾され、その内容構成は、私が担当することになった。

こうして啄木生誕百年記念の「豆本乗車券」は、縦11.5cm、横8cm、厚さ4mm、20ページの体裁で誕生したのである。

構成内容を一寸紹介すると、表紙に、啄木が明治40年5月

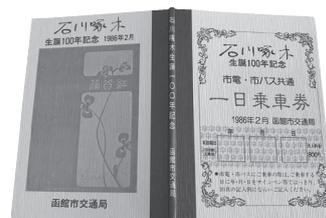
に函館に来ることのきっかけとなった文芸同人首蓓社が発行した『紅首蓓』の表紙、続いて現在函館市文学館に展示されている斉藤咀華筆啄木肖像画と木村捷司筆節子肖像画、続いて函館とのつながりを中心にした啄木年譜、青柳町函館公園内の歌碑、居住地跡、碧血碑、啄木一族の墓、宮崎郁雨歌碑、与謝野鉄寛・晶子夫妻歌碑の写真等となっており、いわば電車・バス共通乗車の啄木案内豆本手帳といってもよい。

果たして、この豆本乗車券が記念事業としてどの程度発行され、どの程度の利益があったのか、そこまで聞くことを忘れてしまったのだが。

因みに、この豆本の記念乗車券発行が呼び水となったのか、昭和61年6月に北海道立函館美術館が開館された折にも、「美術館への誘い」と題する34ページ仕立ての豆本による記念乗車券が、交通局より発行されたことを付記しておきたい。



さくらい けんじ 昭和22年函館市生まれ。昭和45年函館市に勤務。企画部管理課長、教育委員会生涯学習部長、市民部長、商工観光部長などを歴任し、平成20年退職。函館商工会議所常務理事を経て、現在函館山ロープウェイ(株)代表取締役専務



啄木生誕百年記念で発行された「豆本乗車券」



路面電車の走る街に暮らして

山田民夫

全国の路面電車の現況について

明治・大正・昭和と生き続けた
路面電車研究の先達である高松吉

太郎さんの著書『写真でつづる日本路面電車変遷史』(昭和53年第2版)によると「“路面電車”という言葉が生まれたのはおそらく昭和になってからだと思う。それまでは市内電車と郊外電車の二つに分けられていたが、地下鉄が発達するにつれ、これと対照的に市内電車は路面電車と呼ばれ、郊外電車はスピードアップと共に高速電車と言われるようになった。」分かり易い定義かと思えます。

我が函館市電もコロナ禍による乗客減に苦闘しております。現在日本列島にどれほどの路面電車が走っているのでしょうか？

“路面電車を訪ね歩く旅”を今日まで続けている応援隊の立場で選定しました。都市と経営体を列記していきますと、南から鹿児島市；交通局、熊本市；交通局、長崎市；長崎電気軌道、松山市；伊予鉄道、高知市；土佐電気鉄道、広島市；広島電鉄、岡山市；岡山電気軌道、堺市；阪堺電気軌道、京都市；京福電気鉄道、豊橋市；豊橋鉄道、高岡市；万葉線(株)第三セクター、富山市；富山地方鉄道、東京都；交通局／東急電鉄、札幌市；交通局の14都市です。

函館市電の歴史について

大正2年(1913)6月29日に湯の川線が電車運行されて函館市電は107年の歴史を刻み続けております。現在、書店で入手可能なのが『函館の路面電車100年』(函館市企業局交通部編2013年北海道新聞社刊)です。半世紀前に『市電50年のあゆみ』(非売品函館市交通局刊1964年)も発行されております。

注目すべきは、市長のはじめの言葉であります。

「50年」では、(吉谷一次市長)…函館に電車が開通して、早くも50年、市営事業となつてから20年になるが、全く夢のようだ。あらためて、50年間の関係者各位の御苦勞に深い敬意を表する。当時函館水電株式会社によって東京以北では初めての北海道の玄関—函館に電車が運転されたのは全国都市の中で7番目であった。(以下略)

また、「100年」では、(工藤壽樹市長)…(前略)当時、

路面電車の開業は、東北以北では初めてという画期的なことであり、(以下略)

ここで、「東京以北では初めて」を「その1」とし、「7番目」を「その2」として表現を検討したいと思います。先に「その2」の表現が消えたのは、根拠が無くなったからだと思います。長い間「通説」になっていましたが…私見によると明治中期から大正初めにかけて函館の都市力が当時の6大都市に次ぐという自負があったからだと思います。路面電車の開業順による6大都市は、京都(明治28)、名古屋、東京、大阪、横浜、神戸(明治43)になります。

先に言及した高松さんの著書によると、明治末において50超の都市で電車が走っていたとのこと。地方都市で路面電車が現存で走っている都市と開業年を見ると高知(明治37)、松山(明治44)、広島(大正1)があり、廃止となっておりますがハイカラ號の故郷である成田市；成宗電気軌道(明治43)の存在もあります。つまり、7番目という根拠がありません。

次に「その1」の表現を検討してみると、東京の北に千葉県成田市が存在します。そのため「東京以北で」…という表現も問題があるということになります。しかし、何番目であろうとも走り続ける函館市電を応援し続けたいと思っております。

函館市電の思い出あれこれ

① 北洋博のこと(昭和29年・1954)

北洋漁業再開記念北海道大博覧会が正式名称とのこと。第一会場(函館公園)と第二会場(五稜郭公園)で開催され、別々の日に母親に連れて行ってもらっております。どちらも暑かった記憶があります。第一会場の催し物に歌謡曲の実演があり、歌手の伊藤久男さんが声量豊かに“イヨマンテの夜”を唱いあげました。当時小学生の私の印象はびっくりで、アイヌ系の歌手なんだとその後ずっと思い込んでおりました。この北洋博で記念乗車券(片道13円)が発売されております。民営・公営を通じて最初の記念乗車券なのですが、「記念乗車券10年の歩み」(函館市交通局記念乗車券発売10周年特集昭和56年(1981)12月発行)にも記録されず長い間、

幻の記念乗車券となっておりました。この年の秋に“洞爺丸台風”もあり大変な年であったと思っております。

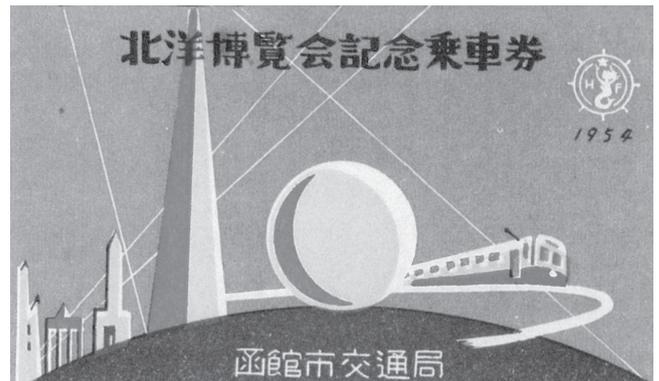
② 五稜郭駅線廃止の夜に

五稜郭駅前からガス会社前までの1.6kmの路線が昭和53年（1978）10月31日の営業運転をもって廃止されました。五駅電停で日中に廃止の記念行事が行われておりますが、夜の定時の最終電車が走りました。交通局長以下幹部職員も多く乗車され、一般の乗客は少なかった。乗務された運転手さんの名残を惜しんだ二回の長声の警笛音が小雨の夜に響き、今も耳に残っております。

③ 除雪車に乗せてもらった朝に

札幌と同様の“ブルーム式”という“ササラ電車”でもあります。冬期間の早朝の始発電車の走る前に保線作業を兼ねて走ります。当時6両の除雪車が在籍していた柏木車庫に早朝4時近くに自転車で駆けつけ、連絡済の除雪車に乗せてもらいました。松風町大門付近では、クリスマスの酔客が除雪車を眺めていました。

積雪のある時に“ササラ”を回転させて走るので安定した走りになるのです。それ以外は、その後のハイカラ號の乗り心地同様に、単車特有のガッタン、ゴットンと走ります。この時乗せてもらった除雪車の番号は忘れてしまいました。



民営・公営の路面電車で最初に発行された「北洋博覧会記念乗車券」(半券)

終わりに

「路面電車の走る街—函館」に誇りをもっております。電車の走る沿線は特有のリズム感があります。100年後にも走り続けさせたいと夢見ております。



やまだ たみお 昭和20年函館市生まれ。昭和45年函館市に勤務。福祉事務所保護第二課主査、財務部市民税課主査、市立函館博物館管理係長など歴任し、平成18年退職。同年古物商許可証を、また、平成26年酒類小売免許証を受ける。平成25年から函館蔦屋書店にて哲学・思想のコンシェルジュとして勤務

原稿募集・次回テーマは「函館山」

函館文化会が取り組む「郷土の歴史・文化の伝承」の一環として、毎年発行する会報に函館の歴史・文化をテーマに会員皆さんの投稿で、特集「函館の歴史と文化を語り継ぐ」を継続しております。次回、第6回のテーマは“函館山”としました。

函館のシンボルとしての函館山、遠足や散策で幾度となく登った函館山、また、半世紀にわたり立ち入り禁止となったことで歴史と自然の宝庫でもある函館山、そんな“函館山”にまつわる皆さんの想いやエピソードをお寄せください。お待ちしております。

【応募規定】

- 1 「函館山」にまつわる想いやエピソード
- 2 文章は原稿用紙6枚程度（2,400字）で、関係する写真1枚の掲載も可能。なお、原稿には趣旨を損ねない程度に手を加えることがあります。
- 3 原稿は、封書、FAX、メール等で令和3年7月30日(金)までに函館文化会へ送付ください。
- 4 出来れば、これまでに寄稿されていない会員の応募をお願いします。
- 5 原稿の送付先、問い合わせは 函館文化会事務局 TEL・FAX 0138-57-1175



函館港内から函館山を望む

特別寄稿

追悼 神山茂郎氏、岡田弘子さん逝去

函館文化会事業「神山茂賞」は平成元年に創設されましたが、創設に尽力された神山茂郎氏（享年96歳）が昨年11月21日に、また、後を追うように岡田弘子さん（享年95歳）は今年5月28日に逝去されました。謹んでご冥福をお祈りいたします。お二人は、「神山茂賞」の創設に尽力されたことはもとより、神山茂賞選考委員会の委員として贈呈者の選考にもお力添えをいただき、函館文化会にとって「神山茂賞」の礎でもあり残念でなりません。お二人を偲んで会員の山那順一氏、櫻井健治氏から寄稿いただきましたのでご紹介します。



「神山茂賞を語る集い」で談笑する神山氏と岡田さん



神山茂郎氏を偲ぶ

山 那 順 一

函館市出身で、函館の郷土史家に尽力された神山茂郎氏が、令和元年（2019年）11月21日96歳で

急逝された。誠に悲しみの極みである。

神山茂郎氏は、彼の父親の郷土史研究家・神山茂氏の業績を称え、後進の研究者を励ます為、平成元年（1989年）私財500万円を函館文化会に寄託し、「神山茂賞」を創設された。平成元年からこれまで27人8団体が受賞している。

茂郎氏の父上・神山茂氏は明治26年（1893年）函館市に生まれ、北海道師範学校を卒業後、道内や函館市内の各小学校で教職に就き、昭和15年（1940年）弥生小学校の教頭を最後に退職。以後、郷土史の研究に専念、その著作は10数冊に及び、昭和28年（1953年）函館市文化賞を受賞されている。昭和30年（1955年）から函館市史編纂委員として「函館市史」の完成に努力された。昭和40年（1965年）11月7日、72歳で逝去された。

神山茂氏の葬儀には、当時の市長吉谷一次氏はじめ各界の名士が弔辞で最大の賛辞を述べたと、資料に記述されている。

神山茂郎氏は、神山茂賞誕生のいきさつを、自ら出版した「函館郷土史家・神山茂の追憶」に、次のように書いている。「昭和40年11月7日父神山茂は人見町の自宅で72歳の生涯を終えました。1週間後北海道新聞に阿部たつお先

生の“神山茂さんの偉業”と題した記事が掲載されました。それを読んだ私は、自分の知らなかった父の一面を垣間見たような、そして世間の方がこんなにも父の仕事の評価して下さった事に、少なからず驚き、改めて尊敬の念を深めたような気がします。

……私はこの父の生涯をかけた仕事を何らかの形で残したいと思うようになりました。父と同じように、地味な調査や研究をコツコツと続けている方がたくさんいらっしゃるに違いない。この方々の仕事を、業績を、世間に発表し評価して差し上げたい。そんな気持ちから、持てる精一杯の資金を提供し、毎年一回選ばれた方にご褒美を差し上げることになったわけです。」



平成30年11月「神山茂賞を語る集い」に元気な姿を見せてくれていた神山茂郎氏

私が神山茂郎氏に初めてお会いしたのは、平成21年(2009年)、「近江幸雄氏・神山茂賞受賞祝賀会」で、次にお会いしたのは、3年後の平成24年(2012年)6月の「若山徳次郎さんを偲び語る会」である。この時は時間があつたので、私の知っている氏の父上の話等を、お話をさせて戴いた。

神山茂先生は、昭和30年代に、私が勤務していた市役所秘書課の向かいの企画室の片隅で、一人でコツコツと市史の編纂の仕事をしておられた。当時の吉谷市長の配慮で、財政状況が厳しい中、市史編さんの重要性から神山先生に委嘱されたと思っているが、確か神山先生の他は1人だけの、小さな組織だったと記憶している。私が、市長の挨拶原稿を作成する際、函館の歴史に関する部分で誤りが無いかを先生に何うと、何時もニコニコと懇切丁寧に教えて戴いた。

昭和45年(1970年)矢野市長は、市史編纂事務局を設置「函館市史」の編纂が始まったが、この時には既に神山先生は他界されていた。私が、市史編纂事務局担当の総務部長に就任した時に、市史編纂スタッフの為に予算の確保に最大限の努力をしたのは、部屋の片隅で黙々と執筆されておられた神山先生の姿が、目に焼き付いていたからである。

神山茂郎氏と二度目にお目にかかりいろいろな話をしている時に、弥生小学校に保存している神山茂先生の絵画や、茂郎氏が平成18年(2006年)寄贈した田邊三重松の絵画についての質問があつた。「粗末にしているなら返して貰うぞ!!」という、厳しい話であつた。

弥生小学校には、田邊三重松、橋本三郎、岩船修三、前田政雄等々の有名画家の絵画や、西村舟水、亀井勝一郎の書など、貴重な歴史資料等が、会議室、廊下、階段の踊り場などに、何気なく飾られている「弥生美術館」がある。

「荘厳なる美術品の宝庫」と評した元校長もいるが、実に内容豊富な美術館である。私は、それぞれの美術品を専門家に鑑定を依頼したら、億単位の評価がされると信じている立派な美術館である。この美術館の収蔵物の所有者は市でなく、弥生小学校の同窓会で、当時副会長であつた私に話があつたのである。

その美術館には、教員時代の神山茂先生の絵画3点ほど飾られている。

茂先生の絵画の話を受けた時は、弥生小学校が新築中で、その年(平成24年:2012年)の11月17日に「校舎落成・開校130周年・統合3周年」の記念式典が挙行された年であつた。新校舎での弥生美術館の保存展示に関する費用は、



北斗市野崎の清川寺境内にある「神山家の墓」

市は全く出さないの、同窓会として卒業生に募金をし、記念行事の募金の一部を美術館の整備費に充て、新校舎に相応しい美術館になっている。絵画については、同窓会の三箇三郎先生、石井久先生など専門家が展示箇所や展示方法について指示設置し、子供達に理解しやすい展示になっている。

茂郎氏は弥生美術館を視察後、保存状態に満足されて、田邊三重松の色紙1枚を寄贈してくれた。この事以来、私は、お付き合いをさせて頂く事になった。それに茂郎氏と誕生日が同じ(7月21日)という縁もあり、より親密な交友関係になった。

茂郎氏は神山茂賞贈呈式に出席するため来函された前日、または贈呈式の翌日に、文化会の関係者や受賞者を、宿泊されているホテルのレストランや料理店に招待するのが慣例になっていた。私は、初めて平成26年(2014年)に、弥生美術館で世話になっているということで、弥生小学校の校長、教頭と一緒に、ホテルの料理店でご馳走になった。

私は、これ以降も、平成29年(2017年)迄、受賞者や郷土史関係の方をホテルや寿司屋に招待する中に、加えて戴いた。そして、その席には必ず、神山氏と函館中学同期の医師・葛西善一郎氏が同席していた。

招待会が終わると2次会を、葛西先生、事務局長、私をホテルのバーに案内してくれた。カクテルを飲みながら、学生時代の思い出、勤務した東南アジアで現地の言葉を懸命に覚え、現地人と対等に話しあい信頼を得たこと、会社設立のバリ島での事業展開などの苦労話などを、楽しそうに話されていた。90歳台の高齢者としては酒に強く、私達が止めることもしばしばあつた。

招待客や我々にも、必ず土産を用意し「今日のお返しはするな、絶対受け取らんぞ」と何度も念を押していた。それでも私は、後日函館の名産品を自宅に送ると、喜んで電話をしてくれた。このように心配りの凄い人で、神山茂賞

贈呈式に出席者として資格のない葛西先生と私を、わざわざ平成27年（2015年）の贈呈式・祝賀会に特別に席を設けて、出席会員に我々二人を紹介するという配慮をしてくれました。私は感激と感謝で胸が一杯になった。

平成29年の贈呈式には、受賞者該当者が無く“「神山茂賞」を語る集い」と題しての会となった。神山茂郎氏は「父・神山茂を語る」という演題で講演されたが、何時ものように張りのある大きな声でお話しになられたが、今思えばこれが最後の講演となってしまった。

このように父親の功績を息子が称え、私財を提供して賞を作り、父と同じ研究者の後輩に賞を与え励ますという行為は、凡人には出来る技ではない。そればかりでなく、多額の私費を投じ、父上茂氏の仕事の成果などを著した「函館郷土史家：神山茂の追憶」を発刊し、神山茂賞の受賞者や文化会会員などに配布したほか、父上の代表的な著書「函館教育史」など5冊を復刻発刊されている。

茂郎氏の遺骨は、令和元年（2019年）12月26日北斗市野崎にある清川寺の境内にある、神山家の墓に納められた。

この墓は茂郎氏の祖父繁樹氏が建てた普通の墓の50倍以上はある立派な墓である。茂郎氏の祖父繁樹氏は会津藩の武士で、清川村に小学校を建てたり、村の開発・発展に大きな貢献をされた方と、北斗市の郷土史研究家・落合治彦氏から伺ったことがある。

以前、茂郎氏の案内で、清川寺を訪れたことがある。茂郎氏は若い頃1年間高龍寺の梁川町法務所で修業された為か、禅宗のお経を滔々と唱えられたのには驚いた。私は、茂郎氏は100歳迄元気でおられると信じていたし、ご本人もそう信じておられた言質があり、急逝されたことは、ご本人もさぞ残念な事だろうと思われてならない。

納骨はご遺族の希望もあって神山家親族だけのごく内輪で執り行うとお聞きをし、私の参列は叶わず納骨の時間に合わせて、お墓の方向に向かって手を合わせご冥福を祈った。

函館の文化の発展に大きな功績を果たされた、神山茂、茂郎父子のご冥福を心から祈って止まない。 合掌



やまな じゅんいち 昭和10年函館市生まれ。函館市に勤務し、商工観光部長、企画部長、収入役、助役（現副市長）などを歴任し平成12年退職。退職後も函館方面交通安全協会会長などを歴任



岡田弘子さんの思い出

櫻井健治

岡田弘子さんが今年5月28日敗血症性ショックのためご逝去されたと言う訃報を知らされたのは、

函館市文化・スポーツ振興財団に勤務する友人からであった。全く予想もしていなかっただけに驚いた。

今年2月6日、北海道新聞社の編集委員である小坂洋右氏が「石川啄木の日記漏えい」に関わる内容を、同紙の日曜版「時を訪ねて」（掲載されたのは6月7日）で取り上げたいとのことで、札幌から私の所へ取材に来られたが、この日丁度函館啄木会の皆さんが函館市中央図書館で打合せをしていることがわかり、二人でご挨拶に行ったのが、岡田さんとお会いする最期となってしまった。

6月2日に、小坂氏からお電話があり、原稿が書き上がったので6月7日に掲載しますと云うお話があった。私は、岡田さんが5月28日ご逝去された旨を伝えると、彼も驚いて、「じゃー原稿の一部を修正しなければ…」と云う一幕もあった。

改めて、正しく図書館人として数々の業績を遺された岡田弘子さんに対し、衷心よりご冥福をお祈り申し上げる次第である。

私は、昭和45年4月、函館市役所に採用され、当時の厚生部社会課（現在の保健福祉部管理課）に配属された。

大学時代は文学部で日本文学を専攻し、近代文学を主に、地元ゆかりの作家石川啄木の論文をいくつか執筆していたが、市役所に入ってからまで啄木研究云々と云うことは全く考えていなかったといつてよい。

当時、市立函館図書館では毎月「啄木を語る会」が開催され、どなたかが講師となって啄木の話をしていただとのことであるが、私は一度も出席したことはなかった。ある時、私が懇意にしていた「江差の繁次郎」ものの作品執筆で著名だった中村純三氏が私の所に来られて、誰から聞いたのかわからないが、私の執筆していた啄木論文を貸してくれ

と云う。これをもとに「啄木を語る会」で話をさせていた
 だくと云う依頼だった。仕方なくお貸ししたが、どの様に
 活用し、どんなお話をされたのか、私は出席していないの
 で定かではない。

昭和46年春頃の事だったと思うが、図書館に当作守夫
 氏と云う係長がおられ、ある時、自分で苦勞して執筆した
 論文なので、人様に貸すのではなく、是非啄木について自
 らがお話して欲しいと云う依頼があった。この頃、今は廃
 刊となった新聞北海タイムスからも原稿執筆の依頼があり、
 こうした背景が、現在に至るまでの拙い啄木研究にはまり
 込む要因になっていったものと考えている。

私自身が「啄木を語る会」で、いつどんな内容でお話を
 したのか、今となっては手元に全く記録がないので明確に
 出来ないが、昭和46年がスタートの時期であったことは
 確かである。啄木と函館の事に限らず、他の作家と啄木と
 の関わりについて、意識的に随分と取り上げたことだけは
 記憶にある。

当時、岡田さんは図書館の資料係長であったと思う。昭
 和49年1月には、今のNHK函館放送局の真向かいにあつ
 た第一分館長に就任、さらに昭和51年7月から57年3月
 まで本館館長に就任と云う道を辿り、当然、この間の本館
 での「啄木を語る会」、そして第一分館で開催された啄木
 関係の講演と、幾度となく講師として招かれたのである。

図書館時代の岡田さんの業績は多々あるが、特に「啄木
 文庫」に収蔵されている啄木自筆原稿や日記などの保存・
 継承に携わられると共に、資料活用のため8,000枚に及ぶ
 直筆原本を複写製本化しての函館市文学館での公開展示に
 も貢献されてこられたのである。

また、函館啄木会の代表理事として、啄木の事績を顕彰・
 普及すると共に、毎年4月13日に住吉町の地藏堂で開催
 する「啄木忌」の法要・講演会の開催など、その功績は計
 り知れないものがあるといつてよいだろう。

平成21年9月5日～7日に、函館で国際啄木学会を開
 催した折には、国内外を含めて80名を超える啄木研究者
 が参加して下さったが、その時、中央図書館の一室で、自
 らが現場に立って啄木の自筆原稿や資料等を展示して下
 されたことは、多くの参加者にも極めて大きな感動を与え
 てくれることになった。この出来事は、私が依頼したもの
 ではなく、岡田さん自らの考えのもとでの特別サービスだつ
 たに違いない。

また、平成26年4月12日には、函館啄木会として、「啄木
 没後百年記念追悼講演会」を開催し、日本文学の研究者で



平成26年「啄木没後百年記念追悼講演会」で
 ドナルド・キーン氏と並ぶ岡田弘子氏

あるドナルド・キーン氏（コロンビア大学名誉教授・令和元
 年2月24日逝去）を講師にお招きしたのも、函館での啄木
 に関わる大きな出来事として、特筆しておかなければならぬ。

最後に一般社団法人函館文化会と「神山茂賞」に関わつ
 て触れておきたい。故神山茂氏の次男である神山茂郎氏の
 生前のお話によれば、神山茂氏が逝去された後、茂郎氏は
 自らの父親と郷土史研究に貢献した故岡田健蔵氏を永く顕
 彰していきたいと考え、当時図書館長だった岡田弘子さん
 に「岡田・神山賞」の創設を相談したと云う。その時、岡
 田さんは顕彰の趣旨には賛同されたが「岡田」の名前は外
 して欲しいと辞退され、結局「神山茂賞」が設けられるこ
 とになったと云う。

さらに、この「神山茂賞」の運営をどこにお願いするか
 と云う問題に対しても、岡田さんの奔走によって「函館文
 化会」が事務局を引き受けることとなり、その後も、贈呈
 者を選考する選考委員に第1回から携わり、神山茂郎氏と
 共に「神山茂賞」の創設・運営に尽力された一人であるこ
 とを忘れてはならない。

今や、図書館の管理運営は、指定管理者の手に委ねる時
 代となったが、石川啄木にとどまらず、貴重な郷土資料を
 極めて数多く所蔵する函館市にあって、これらの価値観・
 重要性を含め次世代にどの様に継承していくのか、函館市
 教育委員会としても真剣に考えなければならない時が来て
 いるといつてよい。その事が、岡田健蔵・弘子親子が、こ
 れまで築いて来た郷土文化の貢献に報いる上でも、不可欠
 のことであることを確信して止まない。 合 掌



さくらい けんじ 昭和22年函館市生まれ。昭和45年函
 館市に勤務。企画部管理課長、教育委員会生涯学習部長、
 市民部長、商工観光部長などを歴任し、平成20年退職。
 函館商工会議所常務理事を経て、現在函館山ロープウェイ
 (株)代表取締役専務

特別寄稿



函館図書館と岡田健藏

丹羽 秀人

1 はじめに

2020年5月28日岡田弘子さんが亡くなりました。95歳まで、

毎週図書館に通い啄木資料の整理を続けるなど、最後までお元気だったので、信じられない思いです。弘子さんは、函館の図書館の生みの親ともいえる岡田健藏の長女で、彼女自身も長く函館の図書館員を勤め、図書館長の重責も担いました。岡田健藏が生涯をかけて収集した郷土資料の拡充と保存に、弘子さんも取り組みました。

そのおかげで、函館の図書館には、幕末からの歴史資料がたくさんあります。榎本武揚、大鳥圭介、土方歳三の他、箱館戦争の幹部たちの写真はほとんど揃っています。彼らの残した書簡や書などもあります。箱館戦争を描いた絵や記録の文書なども多数あり、幕末を取り上げるテレビ番組や雑誌に使うため、テレビ局、出版社等からの使用申請が毎日のように来ます。ですから、このような番組に出される「資料提供函館市中央図書館」のクレジットをご覧になった方は多いでしょう。

箱館戦争の資料だけではなく、蠣崎波響、平澤屏山の絵画や資料、明治初頭の北海道開拓使に係る資料など貴重なものが数多くあります。

この機会に、図書館の設立と発展に尽くした岡田健藏の人生を振り返ってみます。

2 函館に生まれた岡田健藏

岡田健藏（おかだ けんぞう）は、明治16（1883）年、函館区鱈洞町（たなごまちょう、現在の函館市入舟町）に生まれ、大工だった父親を早く亡くし、母の手で育てられました。雑貨屋の住み込み奉公を経て、21歳で「太陽石蠟」というロウソクの製造販売を行う店を立ち上げました。当時の西洋ロウソクは、輸入原料のパラフィンなどで作っていましたが、健藏は地元で獲れるニシンなどの油で作れないかと考えました。そのため、ロウソクに関する文献を探しましたが、製造できるだけの記述は見つかりませんでしたし

た。「図書館があり多くの文献が揃っていれば、苦労しなくてもいいのに」と考えたことが、生涯にわたる図書館づくりの発端です。

当時の函館には図書館はありませんでした。健藏は、函館毎日新聞の投稿者たちによって結成された文芸愛好会「函館毎日新聞緑叢会」に参加し、図書館開設を提案して全会一致で採択されました。とはいえ、すぐに図書館建設というわけにはいかず、先ずは明治40年6月経営するロウソク工場の一角に本棚を設置し、函館毎日新聞緑叢会図書室として一般に開放しました。健藏にとって大切な蔵書と函館毎日新聞からの寄贈図書を並べたのですが、明治40年8月25日、函館に起きた大火に巻き込まれ、自宅と共に全焼してしまいます。健藏の図書館開設への情熱は、この災難にあってもかえって大きくなり、火事の後始末が一段落した、明治41年3月から4月にかけて東京に行き、更に東北を回って10館以上の図書館見学をする旅に出ました。この旅で健藏は、図書館の在り方に多くの示唆を受けました。

函館に戻った健藏は図書館設置に奔走し、明治42年2月11日、函館公園の中にあつた協同館という木造二階建ての建物を改装した図書館開設にこぎつけました。公立ではなく函館毎日新聞緑叢会という民間組織による私立函館図書館です。市民の注目を浴び多くの利用がありました。当時北海道にはいくつかの公私の図書館がありましたが、函館の蔵書約8千冊、年間閲覧者約3万人はその中で最大です。私立図書館ですから、会費と閲覧料で経費を賄いました。図書館内には、喫茶室があり、紅茶、サイダー、パンなどが提供され、朝9時から夜10時まで開館するなど、現在の図書館サービスを先取りしています。

3 寄付で作られた図書館

明治42（1909）年、函館に図書館はできましたが、木造でまた大火がおきれば焼けてしまうことを岡田健藏は恐れました。蔵書を守るために、まだ函館にはなかった鉄筋

コンクリートの図書館を作りたいと考え、函館の実業家相馬哲平にそのことを説きました。相馬哲平は金融業などで財を成し、北海道では最も高額な納税者でした。相馬は蓄財するだけでなく、函館区公会堂の建築費のほとんどを寄付する他、区役所の建設、寺社仏閣への寄進、3台もの消防自動車の寄付など地域貢献を行っています。



今も函館公園に残る旧市立函館図書館

相馬は健藏の訴えに応え、1万円の寄付をします。現在の貨幣価値では1億円を超える額です。この寄付を中心に建設計画を立て、設計は辰野・葛西設計事務所に委託しました。明治、大正を代表する建築家辰野金吾の事務所です。東京駅を完成させたばかりの辰野金吾にとって、函館図書館は晩年の作品です。大正5(1916)年建物は完成しますが、この時建てられたのは書庫だけで、閲覧・貸出しなどはこれまでの図書館を使いました。まずは、書庫の耐火化で蔵書を火災から守りたかったのです。この書庫には、健藏が当初から郷土資料収集の重要性を認識し、収集に努めた箱館戦争など函館に関する資料、アイヌ関係資料が納められました。箱館戦争に関するものなど、戦争終結から四十数年しかたっておらず、まだ手に入りやすい資料も多かったのでしょう。そして、その資料が残ったのも、耐火建築の書庫のおかげです。

4 啄木文庫

この書庫の貴重な蔵書に「啄木文庫」があります。函館には啄木の足跡を示すものが数多くありますが、遠くから来た人たちには「何故函館で啄木なのか」と聞かれます。啄木は、健藏がロウソク工場に図書室を作った明治40年5月、岩手から函館にやって来ました。函館で短歌を愛する若者たちが呼び寄せたのですが、8月の大火に遭遇し、

せっかく落ち着いた生活も水泡に帰し、やむなく9月には札幌に移り、その後小樽、釧路を経て東京に向かいました。函館滞在は短くとも、かけがえのない友人たちの中での活動は実りあるもので、止めていた短歌の創作も復活しました。函館時代がなければ、今日に名前を残す歌人石川啄木は誕生しなかったでしょう。東京で極貧の暮らしを送っていた啄木は、26年という短い生涯を終えました。残された困窮した遺族を函館に呼び寄せ面倒をみたのはかつての友人たちです。啄木と会ったのは1度だけという健藏も、この友人たちと親しかったため、遺族を支える輪に加わりました。

啄木未亡人節子さんの依頼で、東京出張の折、預けていた寺から啄木の遺骨を函館に運んだのは健藏です。更に啄木が死後焼くようにと遺言した日記をはじめ、原稿、ノート、書簡などの自筆資料を節子さんから預かり、図書館で「啄木文庫」として保存しました。健藏は「本文庫は函館図書館に寄附し永久之を存置するとともに其管理増殖其他一切の事務を掌理せしむものとす。」と書いています。啄木を呼び寄せた仲間の一人で、節子さんの妹と結婚して啄木の義弟になった宮崎郁雨と共に、立待岬近くに啄木一家の墓を建てました。宮崎郁雨は、健藏の死後「啄木文庫」に自分の持っていた資料も加えてその保存と公開に努めました。戦後間もないころ、小樽の啄木展のために、郁雨と健藏の長女岡田弘子さんがリュックサックで啄木資料を小樽に運んだことが、小樽市の記録に残っています。宮崎郁雨も亡くなった現在「啄木文庫」は、岡田弘子さんを中心に守られ、図書館の書庫で大切に保管され、函館文学館で展示を入れ替えながら公開されています。

5 市立図書館の誕生

健藏は、図書館本館の建設にも奔走し、市議員になって運動もしました。一途な健藏の言動は、かえって市議会や周囲の反発を招くという事態もありましたが、小熊幸一郎から5万円の寄付を得ることが出来ました。小熊幸一郎は、漁業、海運業で成功した豪商で、函館では名だたる名士でした。はじめ2万円を寄付するということころ、健藏は良い図書館を作るために5万円にしてほしいと頼みました。小熊は「君にあってはかなわないな。そのうちに百万円に値上げしろといわれそうだ。」と言ったとそうですが、これだけの金額を差し出したのは豪気です。小熊も相馬哲平

同様、地域貢献に多額の寄付をしました。この寄付を基に本館建設が始まりましたが、設計は小南武一でした。函館市は、大火から町を守るためにコンクリート造りの建築設計ができる人物を採用しました。それが小南武一で東京の建築家でした。彼は函館市の職員として学校をはじめに多くの公共建築の設計をしました。戦後は市の助役を務め、退職後は函館に設計事務所を開いて百貨店などの設計を手掛け、函館に多くの建築を残しました。

私立函館図書館は、新図書館完成と同時に新しくできた図書館の建物、蔵書、備品など一切を市に寄付し、市立函館図書館となりました。健藏は私立図書館時代から、実質運営を任されながら身分は嘱託でした。函館公園に図書館が出来たころから、家業のロウソク工場は妹に任せて自身は図書館に専念しました。勿論私立図書館で収益がある訳ではなく、健藏は家族を養うだけの収入は得られません。それなのに、財産は本を買うのに使ってしまいました。家族は図書館で暮らし、本の整理に明け暮れます。健藏一家の窮乏に同情した友人が米や年末の餅を届けたこともあり。当時図書館長だった平出喜一郎は、健藏の報酬に充てるために毎月70円の寄付を行いました。市立図書館になって2年後の昭和5（1930）年7月9日、健藏はようやく嘱託から図書館長に就任しました。

6 函館大火

昭和9年3月21日、函館はまた市街地のほとんどが焼け落ちる大火に見舞われました。函館公園にも火の手が回り、図書館に隣接していた健藏一家の住む館長公宅は焼けました。健藏は家族を避難させましたが、自身は図書館に留まり建物に水をかけるなど奮闘し、図書館を守りました。当時9歳だった健藏の長女弘子さんは、母親や周辺に住む人たちと共に函館山山頂に逃れました。今は夜景で有名な観光地ですが、戦前は山全体が陸軍の要塞で、一般人の立ち入りは出来ない所でした。大火という緊急時で軍は登山道入り口のゲートを開けたため、弘子さんも初めて函館山を上りました。山の上からは、燃え盛る函館の街が一望でき、避難してきた人たちは嘆き悲しんだそうです。この火事で、図書館が焼けなかったのはコンクリート造りだったおかげでした。

火事で図書館は無事でしたが、隣接していた館長公宅は全焼しました。健藏一家が仮住まいをしていることに気の

毒に思った友人たちの間から、館長の家を建てようという話が出ました。日中戦争から太平洋戦争が始まる大変な時期でなかなか進まない中、健藏は、昭和18年暮れ体調を崩しました。昭和19年暮れ、家が完成に近づいた時、函館中央病院に入院していた健藏は一時退院し、その家に泊まり、12月21日肺疾患のため亡くなりました。62歳でした。葬儀は図書館の閲覧室で執り行われました。

7 今に残る岡田健藏

岡田健藏は郷土資料収集に精魂を込め、今では手に入れることのできないものが数多く残っています。その図書館は平成17（2005）年3月に閉館するまで75年間使われました。今は一般の人は入れませんが、図書館の書庫として函館公園に残っています。所蔵資料は、旧図書館が閉館した年の11月に開館した現在の函館市中央図書館に受け継がれました。函館出身の彫刻家梁川剛一が制作した岡田健藏の胸像も新図書館に移されて、エントランスホールで来館する人々を見守っています。



岡田健藏胸像 梁川剛一作

参考資料

- 「岡田健藏伝～北日本が生んだ稀有の図書館人」坂本龍三 著 講談社出版サービスセンター
- 「岡田健藏と函館図書館」田畑幸三郎著 函館文化会
- 「岡田健藏君還暦頌徳善本」岡田健藏君還暦頌徳会 岡田健藏君還暦頌徳会事務所
- 「岡田健藏論集」岡田健藏 図書裡会



にわ ひでと 昭和31年北見市生まれ。石狩市教育委員会で主査として図書館立ち上げに携わる。市民の声を聴く課長を経て石狩市民図書館副館長で退職、平成27年指定管理者となった函館市中央図書館館長に就任現在に至る

会務報告

令和元年度 函館文化会 事業報告及び収支決算

令和元年度 函館文化会事業報告

1 郷土史研究者奨励事業を通じ郷土の文化を掲揚し、その振興を図るため、次の事業を実施した

(1) 函館文化会講演会の開催（定款第4条第2号に掲げる事業）

- ・日 時 10月12日(土) 午後1時30分
- ・会 場 函館市中央図書館 視聴覚ホール
- ・演 題 最後の箱館奉行 杉浦兵庫頭誠
- ・講 師 田原 良信 氏（元市立函館博物館長）

(2) 「郷土の歴史と文化」を語る集い（定款第4条第2号に掲げる事業）

- ・日 時 2月13日(木) 午後5時
- ・会 場 五島軒本店
- ・第1部 講 話
演 題 ことばと地域の文化について
講 師 阿部 陽子 氏
(NHK函館放送局長)

・第2部 交歓会

(3) 第7回「市民公開講座」の開催（定款第4条第2号に掲げる事業）

- ・日 時 8月29日(木) 午後1時30分
- ・会 場 湯倉神社 本殿
- ・演 題 湯の川温泉いまむかし
- ・講 師 村山 信夫 氏
(元湯川町1丁目町会会長)

(4) 会報の発行（定款第4条第3号に掲げる事業） 「会報81号」を10月1日発行

2 郷土文化振興のため、文化団体が実施する事業を後援し、或いは助成した

(1) 後援事業（定款第4条第1号・第2号・第4号に掲げる事業）

- * 函館朗読紀行 Vol. 13
熊谷達也作「海峡の鎮魂歌レクイエム」朗読会
函館朗読奉仕会 7月18日
- * 第64回北海道奎星会書道展覧会
北海道奎星会 8月22日～8月27日

* 「小さな親切」作文コンクール

「小さな親切」運動函館支部 12月13日

* 第17回青春海峡文学賞

北海道高等学校文化連盟道南支部文芸専門部

8月24日

* 第96回赤光社公募美術展

赤光社美術協会 11月6日～11月11日

* 第7回「古典の日」朗読会 芭蕉と旅する「おくのほそ道」

函館朗読奉仕会 11月1日

* 第20回函館大学弁論大会

函館大学弁論大会 12月8日

以 上 7事業

(2) 協賛・助成事業（定款第4条第1号・第2号・第4号に掲げる事業）

* 函館朗読奉仕会朗読会函館朗読紀行 Vol. 13

* 第64回北海道奎星会書道展覧会

* 「小さな親切」作文コンクール

* 第17回青春海峡文学賞

* 第96回記念赤光社公募美術展

以 上 5事業

3 会 議

(1) 総 会

ア 定時総会 5月28日(火)

於：フォーポイントバイシェラトン函館

(議 題)

(ア) 議 案

* 平成30年度事業報告について 承 認

* 平成30年度収支決算及び監査報告について

承 認

(イ) 報 告

* 平成30年度収支補正予算について 了 承

* 令和元年度事業計画について 了 承

* 令和元年度収支予算について 了 承

* 「講演会」の開催について 了 承

(ウ) 卓 話（総会議案審議終了後）

・演 題 「伝えていきたい“昔の遊び”」

・講師 藤井 良江 氏
(北海道教育大学非常勤講師)

* 会員の異動 (加入・退会) について 承認

(2) 理事会

(イ) 報告事項

ア 第1回理事会 5月28日(火)

* 任期満了に伴う役員の選任について

於：フォーポイントバイシェラトン函館

了承

(議題)

* 今後の日程について

了承

(ア) 協議事項

(3) 諸会議

* 令和元年度定時総会提出議案について 承認

* 神山茂賞選考委員会委員の選任について 承認

* 会員の異動 (入会・退会) について 承認

ア 神山茂賞選考委員会

令和元年度受賞候補者として複数件の推薦があり、6月14日(金)及び9月3日(火)に選考委員会を開催、慎重な審議の結果「該当者なし」と答申した。

(イ) 報告

* 「講演会」の開催について 了承

イ 企画委員会

函館文化会が実施する事業の企画・立案に携わるとともに、その開催・運営にあたっている。本年度の委員会の開催日数はこれまで7回(持ち回り委員会を含む)で、主なる実施・担当した事業は次のとおりである。

イ 第2回理事会 12月2日(月)

於：函館大学会議室

(議題)

(ア) 協議事項

* 「新春会員交流の集い」(仮称)の開催について 承認

* 会員の異動 (入会・退会) について 承認

(イ) 報告

* 令和元年神山茂賞について 了承

* 「市民公開講座」(第8回)の開催について 了承

* 定款第23条第5項の規定に基づく報告について 了承

(会長、副会長、常務理事の職務執行状況の報告)

* 今後の日程について 了承

ウ 第3回理事会 3月27日(月)

於：函館大学会議室

(議題)

(ア) 協議事項

* 令和元年度収支補正予算(案)について 承認

* 令和2年度事業計画(案)について 承認

* 令和2年度収支予算(案)について 承認

* 「講演会」及び「卓話」について 承認

4 その他

(1) 函館文化会ホームページの運営

函館文化会の知名度の向上と事業活動推進のため、函館文化会の歴史や概要、事業の内容及び開催、報告などの情報インターネットを通じて会員はもとより全国・世界に発信ことを目的に平成29年4月1日に函館文化会ホームページを開設し、運営を行っている。

(アドレスは、<http://hakodate-bunkakai.com/>)

● 企画委員会委員交代のお知らせ ●

函館文化会が実施する事業の企画・運営は、これまで5名の委員(理事)で組織する「企画委員会」が担当しておりますが、今年度から委員5名は理事2名、会員3名とし、次の方々に委嘱いたしました。

櫻井健治、藤井良江、川見順春、須藤由司、
種田貴司

令和元年度 函館文化会 収支計算書

(単位：円)

科 目	予算現額	決算額	対予算比	備 考
I 事業活動収支の部				
1 事業活動収入				
基本財産運用収入	4,910,000	4,981,220	△ 71,220	
会費収入	296,000	296,000	0	
事業収入	6,000	6,000	0	
寄付金収入	1,000	0	1,000	
雑収入	12,000	12,107	△ 107	
事業活動収入計	5,225,000	5,295,327	△ 70,327	
2 事業活動支出				
(1) 事業費支出	3,339,000	3,263,498	75,502	
①文化振興事業	2,645,000	2,589,375	55,625	
事務手当	1,374,000	1,374,000	0	
顕彰費	0	0	0	
会議費	325,000	319,899	5,101	
旅費交通費	120,000	103,870	16,130	
通信運搬費	114,000	113,769	231	
什器備品費	65,000	60,960	4,040	
消耗品費	50,000	48,143	1,857	
修理修繕費	10,000	0	10,000	
印刷製本費	220,000	217,878	2,122	
委託料	10,000	10,000	0	
賃借料	52,000	51,840	160	
諸謝金	145,000	141,413	3,587	
助成金	50,000	50,000	0	
負担金	90,000	80,200	9,800	
雑費	20,000	17,403	2,597	
②土地賃貸事業	694,000	674,123	19,877	
事務手当	225,000	225,000	0	
通信運搬費	10,000	1,776	8,224	
租税公課	400,000	395,000	5,000	
委託料	49,000	48,720	280	
雑費	10,000	3,627	6,373	
(2) 管理費支出	1,526,000	1,476,153	49,847	
事務手当	705,000	703,500	1,500	
会議費	20,000	11,880	8,120	
旅費交通費	60,000	47,190	12,810	
通信運搬費	70,000	65,591	4,409	
什器備品費	65,000	65,500	△ 500	
消耗品費	50,000	51,319	△ 1,319	
修理修繕費	10,000	0	10,000	
印刷製本費	50,000	50,000	0	
委託料	141,000	140,400	600	
賃借料	260,000	250,336	9,664	
負担金	10,000	8,000	2,000	
雑費	85,000	82,437	2,563	

科 目	予算現額	決算額	対予算比	備 考
3 法人税、住民税及び事業税	430,000	424,400	5,600	
法人税、住民税及び事業税	430,000	424,400	5,600	
事業活動支出計	5,295,000	5,164,051	130,949	
事業活動収支差額	△ 70,000	131,276	△ 201,276	
II 投資活動収支の部				
1 投資活動収入				
特定預金取崩収入	150,000	150,000	0	
郷土資料等整備積立金取崩収入	150,000	150,000	0	
特定預金借受収入	300,000	300,000	0	
郷土資料等整備積立金借受収入	300,000	300,000	0	
投資活動収入計	450,000	450,000		
2 投資活動支出				
特定預金繰入支出	100,000	100,000	0	
退職給与引当金繰入支出	100,000	100,000	0	
特定預金返済支出	300,000	300,000	0	
郷土資料等整備積立金返済支出	300,000	300,000	0	
投資活動支出計	400,000	400,000	0	
投資活動収支差額	50,000	50,000	0	
III 予備費支出	50,000	0	50,000	
当期収支差額	30,000	181,276	△ 151,276	
前期繰越収支差額	250,101	250,101	0	
次期繰越収支差額	280,101	431,377	△ 151,276	

〈注記事項〉

- ・投資活動収支の部 特定預金取崩収入は、次のとおりである。
「郷土資料等整備積立金取崩収入」は、「同積立金のうち150,000円」を取崩し、会報発行等経費に充てたものである。
- ・投資活動収支の部 特定預金繰入支出は、次のとおりである。
「退職給与引当金繰入支出」は、退職手当支給に備え100,000円を積み立てるものである。



一般社団法人 函館文化会 会員

(令和2年10月1日現在)

- (ア) 東安厚 立谷 仲真享 江美子
- (イ) 五百川 五池池石 石伊伊今 田見井田山藤藤井泉 忠己一樹彦子 延厚直恒正 延厚直恒正 由香 昌誠 昭治 和子 樹雄哉孝 愈治介弘彦治史男
- (ウ) 上梅 田田 昌誠 昭治
- (エ) 繪面 和子
- (オ) 近近小小小沖小小山落落小野小 江江原原野熊内合合沢原 茂幸金 信庸武治良猛幸 樹雄哉孝 愈治介弘彦治史男
- (カ) 具葛梶加 森西原藤藤 子郎倅郎子
- 山澤 谷生崎見野 原田屋村村
- 金金叶上蒲川川官 北貴杵木木
- (キ) 善福勝拓裕 通郎恵美俊 善福勝拓裕
- (ク) 工藤 亜也子
- (コ) 荒幸小小小駒小今 到野林林林井柳 夢三和 裕惇辰千 修和六健拓 俊志公育泰史美
- (サ) 齊堺坂櫻櫻佐佐佐笹佐佐里佐澤 籐野井井木木木原藤藤見野田 三吉男治郎馨茂克郎郎子彦人千
- (シ) 島清清 津水水 永野木藤田 田井中 田橋村島川村中中原村 野功 喜久子宏彦 久康元 秀嗣 仁彦晋豊平也山
- (ス) 末菅鈴須隅 和昭達 昭郁善和桜貴良志
- (タ) 田井中 田橋村島川村中中原村
- (チ) 野功
- (ツ) 辻土坪 家山 田富
- (ト) 尾野野村村
- (ナ) 中中中中中 尾野野村村
- 中夏成 村井田 紀 寛男豊 松松松丸 崎村谷藤 水 德隆勇競
- (ニ) 西西丹 澤谷羽 勝文秀 郎子人
- (ネ) 根根 津本 静直 江樹
- (ノ) 野信野野野 戸田口又村 崇利博 辰
- (ハ) 橋浜谷 田内 恭節 一子
- (ヒ) 野原 利康 明宏
- (フ) 福藤藤藤藤札筆船古 原井井田内村矢野 方良 征美美柳太
- (ホ) 本田 光正
- (マ) 増井崎 慎満洲夫
- (ミ) 三宮 浦崎 悦清次英信 悦道 進夫子一也
- (ム) 向向棟村村 利吉 島田田那本 田田 栄則 美代弘直一義
- (モ) 毛本 悦道 民涼順真 英幸 兼正
- (ヤ) 安山山山山 田田 柳松山邊利
- (ヨ) 吉吉 若若若渡渡

(以上153名)

編集後記

- ◇「函館文化会・会報」第82号をお届けいたします。今回も「会員に読まれる会報」「会員が参加する会報」を目指して編集に取り組みました。今号も多くの会員皆さんの寄稿を中心に読み応えのある会報になったと自負しておりますが、今後の編集のためご一読いただきましたらご意見・ご感想をお寄せください。
- ◇この春から、新型コロナウイルス感染症の拡大で緊急事態宣言が発令され、仕事も日常生活も一変、不便な生活と不安な日々を過ごされたことと思います。函館文化会も、市民公開講座が二度にわたり中止、定時総会も審議時間を短縮、卓話を中止するなど事業活動にも大きな影響が生じております。そんな中ではありますが、10月の「講演会」、11月の「神山茂賞贈呈式」は感染対策を図りながらの開催を予定しております。ご協力をお願いします。
- ◇特集「函館の歴史と文化を語り継ぐ」、今回のテーマ「路面電車」…。函館交通部大久保孝之部長始め6人の皆さん

- から、それぞれ違った視点からの想いやエピソードを寄せていただき、これこそ特集の意義だと思いつつ楽しく読ませていただきました。ありがとうございます。次回のテーマは、毎日目にする「函館山」です。さて、どんな話が聞けるかな、今から楽しみです。
- ◇「神山茂賞」の生みの親でもある神山茂郎氏、岡田弘子さん逝去されました。お二人を偲んで山那順一氏、櫻井健治氏から思い出話を、また、丹羽秀人氏からは岡田弘子さんの御尊父岡田健蔵と図書館の誕生について、それぞれ寄稿をいただきました。これからも、郷土にまつわる歴史や文化に関する皆さんからの投稿をお待ちしております。
- ◇本日現在の会員数は153名、今後も函館文化会の活動に賛同いただける方を一人でも多くという思いで会員増強に努めてまいります。引き続きのご協力をお願いいたします。(編集子)